

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9

君柔席上贈仲志  
思君空歲年忽爾得周旋  
鵲噪他時喜揮聯  
此日憐久雜餘鬢  
白頭解覺談玄幸遇高堂  
宴相酬杯酒前

高祖有諱了り書似王父疑曾祖  
夏後國分全字三来

○皇清徑解七冊 丁巳三月考病

御堂國秀 二万二千三冊

考二記圖 結語也 二冊

車利國解 千卷五十一冊

鐘の所尋書影成 千卷七十一冊

易國歌 千卷九十一冊

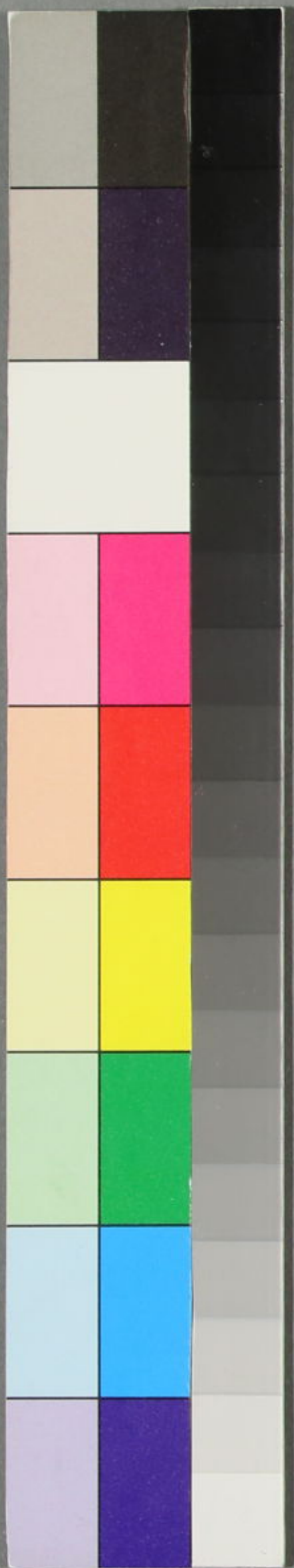
# 答案

安政丁巳戊午

元彰

書作縛ニ似たり然レ此轉九ニ世說文學下桓南郡与殷  
荆州共設每相攻難羊餘後但二兩考桓自歡才思  
轉退般之此乃是君轉解 此以觀寸ハ轉解ニ見談  
玄義始明白久雜轉解正属對ノ妙ヲ觀ル

服部文庫  
417  
2186  
5



117 45  
2186  
5

詩學解環

元龍

高家保李凡人  
大ハイニ取扱フ云

元龍未下當時傲

元龍ガソノ折ノ傲慢  
ハ今ニナラヌ

何人強責元龍

禮

元龍ノ様ナ高家元者ニ禮儀作  
礼トガメダテラズルハドノ様ナ人テス

樓卧仰陳登

高家元ノケダカイフハ元龍  
同様ナ人ト尊敬スル

見來

湖海失元龍

ソモトノ様ヲ見レバ奉公スナドニカ  
様ナ人デハナイ陳元龍杯何デモナイ者ニ成テモラ

お禮元龍座

途想元龍乘暇處月明誰共倚樓看

ソモト任  
元龍トノ近來ノ様子  
ハ相替スス浮世ヲソナ

所ニ赴也

萬尺樓頭春色老青樽今日有誰攀

高イ樓上ノ春景  
色モ大分フケダガ

登樓不見陳元禮

禮疑龍誤  
元龍ノ様ナ人ハニハ又

樓高千載無人問

アコリ見識ノ高イハ其後トシ  
ト人ガイタサヌ

○樓トテト畢竟空徳ノ詞  
ニテ陳元龍ノフニハ無クモ

有之玉臺元不除ト有之ヲ一本ニハ湖海之士トコレアルユハ湖海トテ用マフニ候

卧龍

孔明ノコト

早識卧龍應有分

孔明ヲ人ガ卧龍ト云クガモト自分

寧知天子貴尚憶武侯廬

是ノ天子貴尚憶武侯廬ノ時ノ詩

仲密毅モ比シクテアラフ

明ノ居ヲ行モシ井ノ格別ノコト存スルニ

君今仍作卧龍看

ソコモト今以孔明同

病卧山中擬蜀龍

病ヲ抱テ山中ニ引込テ孔明ノ

憶昔漢孔明龍起答

三顧

蜀ノ孔明ハ卧龍ノ様ニ引込テ居ラシムルガ玄德ガ

不知湖海

卧龍高

知ハ如字ノ後〇ヤリ引込テ

折衝直有卧龍才

軍ヲ出シテ敵ヲ

莫恠多雲氣

隆中暫卧龍

有之〇ソコニ雲氣ガ

不見當時卧龍者

卧龍自借風雲起

孔明モ玄德ノヤウナ御主人ニ逢ヒテ

臥龍自借風雲起

孔明モ玄德ノヤウナ御主人ニ逢ヒテ

絶交

忽枉山濤札

中散近來疎懶甚久無書札到

此時愁叔夜且直首感

山濤

此方モゴロヤウナルハ嵇康同様ニ疎年別レテ

客訝山濤札

人ハ何カ

未成中散絶交書

絶交ノ書ニセダ

不須重州絶交書

嵇康ノ

解道愁康懶書成也自寬

嵇康ノ

解道愁康懶書成也自寬

嵇康ノ

不知何時起卧龍

ソコモト孔明ノ様ニ引込テ居ルガ

不知何時起卧龍

ソコモト孔明ノ様ニ引込テ居ルガ

卧千秋思

孔明ノ様ニ引込テ居ラシムルガ

卧千秋思

孔明ノ様ニ引込テ居ラシムルガ

草后引込テ居ラシムルガ

草后引込テ居ラシムルガ

草后引込テ居ラシムルガ

草后引込テ居ラシムルガ

格別ノ人デトウク孔明ヲ引出シタ

格別ノ人デトウク孔明ヲ引出シタ

格別ノ人デトウク孔明ヲ引出シタ

格別ノ人デトウク孔明ヲ引出シタ

雲外

君臣ノ合体セヌコト今ニハタラキ

雲外

君臣ノ合体セヌコト今ニハタラキ

稍喜巨源能厭世未須重擬絕交書

山巨源トモヤハリ世ノ中ニ支リ居ルヲイヤニ思ヒテノ様子ニハ

ヨロコバシイ何モ今又絶交書ナド

尺牘謝山濤

一寸手紙ニテ山濤トニ

絶交元職

絶人間

愁康ガ山濤ヘ書ク與ヘテ文ヲ絶ルモ只山濤トノ間ノ文ハカリテハ無ク勿漏世中ニミシラハ又心懸テアル

寄君何擬絶

交書

ソコモトニ書クオクモ絶交書ノ真似ヲスルアハナイ

⑤ 德星

賢人多キニ用ニ

德星文彩瘴天涯

瘴疑障誤○多クノ賢人共ニ遠方ニ居ラレニハ出會スルコトモテキ又

德星池館在江東

スクリ人ノ集リ先師庭ハ江東ノ方デアル○莖集ヲ思ヤリテ詩ニモ

省郎星聚元非

客太史明朝莫漫猜

カヤウニ御役人ノ出スクリ人御出會ニ客星ト云物テハ無ク程ニ天文星ヨリ明朝不審ヲ申上ニ及又○服子陵ノコトヲ取

德星猶聚五湖傍

五湖辺ハ今ニ賢人ガ多クヨリ集ル

万里聚星多

近四ニスクレ者ガ多ク折フ

名家聚德星

御家柄ニスクレ人カハシ

偶作春星聚母令好事

傳

タラク宗舎カトシハ華ノ人ニ德星集ヲナドイセルナ夜止居テハ宜クナリ

孤客群星聚此延

客夜深○ヒトリ住居ノサシキ夜スクレ人ガ多

吾世向元後百同沈此部純文集飲後伯詩ノ六句  
ア五の至因客上卷ノ句アリ 此詩自注時禁夜睡

ク此星ニ見エラレタ

古来天上聚星難

昔シカラスクレ人ノヨリ合フハツカシイモノ

即今無恙首文若

著膝猶堪當一星

首文若トノモモ息災ヲアリクニ德星ノ内ニ入ルヘキニオシキコト致シタメ○元美ノ子ヲ表ヒテニ尊ルナリ

論文還

比聚星人

御互ニ文章ノ吐テラシメテヤリ首陳 真似ツスル

天上星兼詞客聚

スクレ人ガ多クイニシレテ天ノ星モ多ク

德動天上星

德ノ格別ナル天文ニミテアラハレル

滿坐何人當一星

此座中誰ガスクレ人デア

人間天上好相隔已見夜来動德星

人間ト天上ト遠ク隔リ居タレドテ夜ニテハ此スクレ人々ガ直ニ天文ニ

アハレテノミルシテモト感  
応ノ由キ格別デア

朗陵賓客夜滿庭

朗陵ハ首陳ナリ○御亭ニ坐シテ又首朗陵ドノニモスクレ人ニテ殊

ニハムシテ  
アル

天上人間望相似不知何處問星文

天上人間モ格別ナラズ今世上テスクレ人共ガナリクニ成テ居ル

ユニ定テ天上ニモ德星ノ  
アツルコトハアルマ

⑥

雪賦

魏王家ノ園カ  
臨洛後園ニ  
モ此比シ果園

絶唱梁園雪裏時

梁園ノ雪中ハスグレタ  
景亦色

不似梁園雪

後尊

梁園ノ雪後ノサカモリノ様テハナイ

此去梁園逢雨雪

此去ラ立去ラシテドコカ好キ処ニテ雪ノフルヲナガメラルニデアラフ

憶在梁園逢雨雪

梁園デ雨雪ニ逢タルヲ思ヒ出ス

腸断梁王雪夜樽

雪夜ニ親王ヲ御前テ御酒宴ニ陪モルルヲ思ヒ出セル腸モキキル様ゾアル

賦就梁園無左席

梁園デ雪賦ヲ作リテ上客ノ所在扱デアリ○左席ト王ノ位ヲ譲ラレズニ左ノ席ヲアケテ賢人ノ坐席トシテ置カレシムアリシヲ用ヒテ王ノ

取扱ニナルヲキカセタルミラズ

門少梁王雪後車

雪ニケケナトニ親王ヲ召サレ、車モ今ノ門前ニ見カセヌ

誇白雪相如賦

有馬相如カ書ク雪賦ノ様ナヌニ至リ、十の世トモ自慢セル

梁苑賦成誰授簡

梁園

賦ガカラキタ分誰ガ書キテモツケ

一到梁園見賦才

ハレナ惠ニ出テコソ兼テ、才氣モワカル

梁園授簡人

ソコモトハ梁園ニ賦ヲ書キテ、今ヤウナ処テ雪

天欲並傳梁苑賦

ニ逢フハ平原ツタ

リノ雪ヲ賦シテ梁園ノ雪賦ト同一人ニモ蒙ル

月出梁園授簡遲

思フニモ少シ猶豫スル○此

句ヤウト云フ天トフノ思ハズト云フ

兔園一望渾如雪人在梁王古吹其臺

吹其臺ハ平甚

ニアリ○コレハ月ヲモテ詩○用ガヨキヲコレトシト梁王ノ兔園ノ、ハルル

知君日向平甚臺

猶作梁園雪裡看

コレハ柳絮ノ飛ラ見ルト云フテ云ハシクナリ○ソコモトハ大カタ毎

ノ元ビヤリ雪ト書テ梁園デオカシテ

雪賦幾篇脱稿

雪ノ賦ガ何首テキラ

鳥ガデキ上ツタ

梁園風雪正狂人

梁園ノ狂ハ面白モマラフカ此ハ風雪ノサハユ、誰擬

梁園作賦才

誰カ雪賦ヲ書タル相如ヲ目アケニスル程ノ

曳裾忽動梁園雪

御取扱ニテガカリテ梁園ノ雪ヲモ

雪後梁園鴻雁多

雪ノアケクニハ梁園アタリハ雁モ

上及知君頻授簡

ソコモトハ親王家ニモ厚キ御取扱デアラト云ヒ

孝王誇授簡何當置尚平甚

親王家ノ格別

ニ思召込ニル、ト云フ内ニハ梁園平甚臺一行テ御酒宴ノ

衣裳欲逼梁花雪

梁園ノ

坐方盡知授簡才

一坐ノ人ハイヅレモ御取扱テ賦デモ

催賦才

雪ノ様テサア賦シ早フ

紛々偏媚梁園

作レトイハヌハカリニ云ル○是ハ柳絮カ何カ

チラスシテ梁園ノ人ニ  
ニコビルヤウナ

以上五條己四月廿六 沛東下後 翠度

⑤ 脩禊

脩禊ハ蘭亭ノ三限ラ又「三」ニ於テ人ノ用ル所ハ皆蘭亭ノ事ヲ用ユ

三月三日 人似永和年 ヨリアフ人ハイウレモ蘭亭ノ群賢ヤウナ人 脩禊于今正暮春 脩禊ノ今ハ

昔賢 不快ヲモテヤハリハラヒラスルガハズ 永和三日温輕舟 コノ節句ニ舟ニテ出テ

風俗猶傳晋永和 今モ三月三日ノ曲水ノ宴ラスルハ永和ノ風俗ガ残テ居ルノテ 蘭亭禊事

修 蘭亭ノ同様ノハラヒラ 永和三日命扁舟 永和ノ頃ト同様ニ水ニ出テ舟ヲ行テ居ル 千載蘭

亭事可求 蘭亭ノ極昔シノ事ナカラ隨カソノ風俗 見説蘭亭依旧在 三月三日蘭亭依

蘭亭昔昔シノ様 曲水宴ナトハ其似ラスルヲハテ中 蘭亭脩禊日異國泛舟時 三月三日蘭亭依

飛觴推逸少 曲水宴ニ杯ヲトシテ遊フモ 于今只賞蘭亭帖 王

山陰風色好堪賞 山陰ノケシキハ真賞

水曲稍浮脩禊觴 水ガ浮カテ居ルニハ杯モソク 蘭

亭帖罷人何處 名高アイ蘭亭帖ヲ善名ヤウ

⑥ 南樓

詩中屢公用 主人興不淺 主人殊ノ外 庾公愛秋月 庾公カ深ク

庾家樓在斗牛邊 庾亮トリノ月 月白庾公樓 秋自ラ賞

興至一登樓 面白ク成テ来テ 不淺南樓庾亮 南樓ニアリテ見

武昌月滿南樓夜 武昌アタリ月ガ

情 南樓テ月ヲナカメテ庾亮トノ 武昌月滿南樓夜 武昌アタリ月ガ

却憶諸君明月夜 ソコモトニハ 臨風清嘯

滿南樓 サツ月ノヨキ夜ナド大勢ノ方ニト南樓デ 暗度南樓月 月ハ

登樓明月三湘滿 二階ニ上テミレハ三湘アタリハ 知君近看

之ノ蘭亭帖ハ今以テモ  
モノ當教スル

江南賦千古深知庾信哀

コトハ庾信ノ故事ニテ庾亮ノ南樓ノ故事ニカハス下段  
庾信南朝梁人親ニ使者ニ行ラシメテ大五ノ江ノ南に居ル

月明應醉庾用之

公樓月ノヨキ夜ニ庾亮殿ノ乘醉倚南樓一杯キケンテニ共知庾亮南樓階ニアル

夜庾亮トノ二階ノ月ノ夜ノ景色ハ庾亮樓前月立込ニ階ノ高興在南樓

何事隔南樓南樓ヘ行クノノデキ又庾家明月照南樓庾亮

庾亮樓頭月正明庾亮トノ二階ハ元規興南樓南樓宴南

庾公樓上月初出庾亮トノ二階ニ南樓夜人

相望每夜南樓人ノヨリ月滿南樓庾子愁平生月ヲ眺ム南樓ノ月ヲモ

羞將短髮還吹帽シラガアタマニテ帽ヲ吹落不用風

落帽

羞將短髮還吹帽 不用風

吹帽尊前有靜琴コトハ本ト重陽ノ句ノ風モ帽ヲ吹ク却憶龍山帽徒增

醉者哀龍山ノ落帽ノコトヲ思ハハ白髮ヲ風ニ吹カセ共美重陽節但懷

落帽歡今日ハ重陽ノ佳節トヨイハルニ又龍山ノ酒ヲ不妨詞友醉龍山

何如杯酒醉龍山龍山ニテ醉ル露枝分側帽

重陽獨酌真無賴上ガ然ハシク思ハ愁絕高臺落

帽風コノ重陽ノ佳節ニ相テ酒ヲ飲メハ一向豊モ無イ帽落

層雲迫コシモ木子重陽ノ句ノ醉テ風ニ帽ヲ落サレ好氣ニ成テ此ハ層雲モ遠方吹帽時

明朝更有龍山約明日高キカ登ラト云吹帽時

九日龍山飲九日ノ節句ニ相替ス醉看風落帽

醉看風落帽醉キケンテ風ニ帽ヲ落サレタモ醉看風落帽

落帽醉山月知ラズヤ月ガヨクサエタ醉看風落帽

落帽醉山月知ラズヤ月ガヨクサエタ醉看風落帽

落帽醉山月知ラズヤ月ガヨクサエタ醉看風落帽

落帽醉山月知ラズヤ月ガヨクサエタ醉看風落帽

落帽醉山月知ラズヤ月ガヨクサエタ醉看風落帽

落帽醉山月知ラズヤ月ガヨクサエタ醉看風落帽

落帽醉山月知ラズヤ月ガヨクサエタ醉看風落帽

落帽醉山月知ラズヤ月ガヨクサエタ醉看風落帽

莫道龍山高會後風流今少孟參軍

昔桓温カ龍山ニ酒宴シテ殊ノ外盛ナルヲ當時テハ孟參軍ノ

ノ様十風流十人ハ無イト夫ノイハルナ

明朝縱及龍山會那得長逢落帽人

今モ落帽ハ孟嘉カラズト云フガ

千載猶留落帽文

夕トヒ明日重陽ヲ龍山ノ様ナ會ガアラフトモモヤ今日ソフモトニ別シテ孟嘉ノ様ナ人ニ出會サレ又○コレハ九月八日三元美ヲ送ル詩

秋風吹落龍山帽

秋風カ吹テ来テ孟嘉ノ帽ヲオトス

坐客誰如孟萬年

坐中ニ孟嘉ノ様ナ人ハ誰デアラフ

縱有落帽文

夕トヒ落帽ヲ嘲ラシタニ云ル文

章カテモタトテモ

① 萼鱸

故マシ懷フテ放飯ニ歸ルヲ等ニ用ユ

此行不為鮓魚膾

此度ノ涉旅行ハ鮓魚膾ニ付テ故飯ヘユカルノデハ無

張翰江東去正值秋風時

張翰指ス人有ミ○張翰下ノ江東方行アルカテ下秋風ノ吹ク時

扁舟不獨

如張翰

舟ニ乘テカマシ行カレガ張翰ニ似テ居ルニテ無クイカカリノ面白キヤ

張翰復歸吳

張翰下ノ此度又吳ニ歸レル

秋風教憶膾

孟ヤ秋風カ吹テ来テ又カマシ鮓魚膾ヲ思ヒ出サセ

知君秋興在膾魚

此秋サキソソモト

ラレルハ外デハアルヲ

似玉鱸魚膾橙絲縷更鮮

江南鮓魚膾ヲ樣ニスキ通ラヤウト又

細キハ糸スチノ様ニテマツトニ奇麗

却笑張公子萼鱸奪宦游

張翰カ昔鮓魚膾ニ奉公ツヤメタトニモオカシ

鮓魚膾

鮓魚ノ膾モ美シクモナイ○此海中行ノ句

扁舟張翰來

小舟ニ乘テ張翰カ歸テ来タノ記此中行

絲孰應逢張季鷹

○萼鱸ノ肥ルヲ待カヨリ追ツ

西風獨許季鷹

回紫酒青萼亦快哉

○此美酒ノ句○秋風カ吹ニ付張翰カ歸ル暇ヲ取テ子細クク歸ル

鱸魚一憶興何深

カマシノ鮓魚ヲ思フニトテアノ様ニ無情ノ深イヲ思フ

客有將歸張翰才

如キ大ノ人カ歸ル如キテ居ラレル

東征且莫恋萼鱸美

此度中ノ方ハユカルニモサカシムルヲ引カレルヤ

今存否帳指南雲歸去來

カマシノ萼鱸ヲ思フニ相尋ル様子モ無ク何カ不慮シク成テ程遠南ノ方ヲサシテ歸ルヤ

萼鱸正好歸無計腸斷吳江秋水深

今大秋ニ成テモフ萼鱸膾ノ真景中テカガ歸ル手ダラモ本妻又空リ吳

中ノ秋ノ様ヲ思ヒヤウラ腸ヲキギルハアリラン

病自萼鱸思後起

念テズイト快ヨク成タ



若語尊鱸秋後味 秋三歲テハ昔年モ尊魚モ格別ト 汝豈因鱸膾 ソモト湯ヲ

ノ秋テハ中、 知君回首憶鱸魚 ソモトモ定テカフ 鱸魚新熟別江東 ソモト湯ヲ

今、秋ヲ鮮魚モラフト肥タニ 何須一助鱸魚膾始挂孤帆向釣磯 何モ一

膾ケライノフテ舟ヲ乗テカフ 忽思鱸魚膾 ソモト湯ヲ 忽憶鱸魚膾 ソモト湯ヲ

扁舟住江東 鮮魚膾ヲ思フニヨリ小舟ニテ 鱸魚正美不歸去 テフト今鮮

片帆歸 片帆歸 鮮魚膾ヲ思フニヨリ小舟ニテ

去就鱸魚 小舟ニソツテカフニ行テ鮮魚 鱸魚所膾輸張翰 ス、キノサシ

暫憶江東膾 暫憶江東膾 吳中ノ鮮魚膾

北山 北山移文ハクシガ 良常應不動 接 菴

移文 本傳ニ申不申、ハハリ兼ニ本傳 北山移去前文在無復教人嘆曉猿 接 菴

る

北山歸草堂 北山ノ草堂ニ 移文 立モドラフ

今慚北山靈 後、北山ノ神ニ 只道避喧避世他時休勒稚

圭文 此方ハ世ノ上ノ賢ニシテ山ニ引込テ居ルハ別ニ賢人カホニ世ヲ避テ引込テ居ルハ無ニカラタト

南空別業移文今慚北山靈 北山ノ靈ニ 却憶江

呼松竹間 隱宅ニハ主人トノガ居ラレヌコトハ空ク 山中春色託猿鶴誰假北

山更勒文 隱宅ノ山中ノ春色ノヨイハ猿鶴ニタノミテ留守ラ 以上五條 九月廿

窮途 進退キハマルニ用ユ 白眼 俗人ヲニラシ 青眼 凡ニ入タル中ノヨキ 君有

賢主將何謂 愚躬 ソモトノ御頭ハ賢人ニハソモト 茫然阮藉途 茫然、

進退キハマルニ用ユ 茫然阮藉途 茫然、

進退キハマルニ用ユ 茫然阮藉途 茫然、

進退キハマルニ用ユ 茫然阮藉途 茫然、

進退キハマルニ用ユ 茫然阮藉途 茫然、

進退キハマルニ用ユ 茫然阮藉途 茫然、

進退キハマルニ用ユ 茫然阮藉途 茫然、

進退キハマルニ用ユ 茫然阮藉途 茫然、

誰分哭窮途 誰が世に暮らして進退を  
己に限らば 君見途窮哭宜憂阮步

兵 此方阮步兵同様ニ進退キハツテ居ル  
御覽アツテ御心配下サレヨ 萬國盡窮途 窮見交態

還遭俗眼白 ヤハリ俗人ニシラミ  
ツケラレ 青眼言歌望五子 青眼ニテキゲンヨリ歌  
ヒテ

蓮 中カヨリテ李白  
ラシタフ 窮途日困泥沙 サシツマリテ日  
ラヌ 昔賢何必哭途

窮 昔人ノ賢ナラバ中ニサシツマリ  
進退キハルハ無サナモノ 輒有時人至窓前白眼看 イツモ浮世ノ人ガ  
クルト門ロデニ

眼 見スシラヌ者ハ  
ミラミツケテ 阮公失路誰青眼 阮藉ドノハ當時ニ不首尾テア  
當時ハ誰又氣ニ入ルモノハ無イデゴサフ 路人終白

往寧悲途路窮 サツリトシテ居テサキクノノナド心ニカケヌホド  
クトヒ不仕合テ進退サシツケテモ此モハセヌ 予亦窮途窮

相逢眼中人 相逢誰是眼中人ト云フ  
人ニナジモノ者ガゴザルカ 白眼終亦解事人

白眼風塵一酒卮 世ノ中ラハミツケテ  
酒ヲ飲テ 白眼生平君

自見 此方兼ニ世ノ人ヲミ  
ミツケテ居ルハ所承知テアラ 那知十載窮途淚 數年未不仕合テ泣  
テ居ル 眼

中人漸少 總意ナ人モ少  
ニスクナクナル 白眼俱誇無世情 世ノ中ヲミラミツケテ聊俗  
氣ノ

樽前青眼暫相同 一オナリト中カヨクシテ  
酒ヲ飲カハス 休論白眼狂時事 狂態ヲ出シテ  
世ヲミラフ

不是青山色寧留白眼人 心ニカケテ青山ノ様ナ物ヲナケレハ  
キスニ居テハハテキ又中ニ世ノ人ナトミ進テ

風塵漸老窮途哭 世ノ中ノ驥ニ數ニ不仕合テ  
是レテ居ル内次ヲミキガヨク 肯向人間泣路

窮途阮藉幾時醒 不仕合ノ阮藉ハ酒ハカリ  
飲テ暮シテ居ルハ 青眼只途窮 脚互ニ  
仕合ニ

似欲慰窮途 不仕合ヲナゲサ  
メルヤウデアアル 處是窮途 ドコモクサシツマ  
リゲナク 山色

供青眼 山ノ色青イバカリカ仲カヨ  
キ人ノカリデアアル 青眼相看奈尔何 脚互ニ仲ヨイ間デア  
外ニ致シヨウモナイ

山色 山ノ色青イバカリカ仲カヨ  
キ人ノカリデアアル

敢同俗態期青眼

俗人ト同シヤウニシテサカ  
ラハヌ様ニ掛ヤウト思フ

為說窮途阮藉愁

コソリテ居ルハ阮藉ノ身ノ上  
ウイツイライ吹ミフミテキカセル

持螯

執カク酒ヲノム

遙知兄弟持螯處念我還停濁酒杯

此方ハ在愁ハ酒ヲ  
ノムコニシル

百年祇冷持螯醉

コノ世ノ中人間モ生テ居ル内ハ  
勢ヨリ酒ヲ飲テ醉フコトイ

我輩復持螯

酒モリラ 故態持螯見

コノ時節テモ酒  
モリヌバヤメヌ

此去任持螯

ラ酒ヲ 故態持螯見

上ニ見ユ

吾手任持螯

持螯整右手執丹玄

左手ニ解螯ヲ持テ右ヲテニ先任  
引ナガラ酒ヲ飲ム

紫蟹肥時酒滿缸

酒當持螯客

執カク酒ヲ居ル人ノ前ニ  
イモ酒ガアル

日持螯能對君

解蟹モ十カモミノイリカ時節  
コト酒モ只山アカラナク飲カクイ

螯ヲワカセナカラ酒ヲノムカ  
一生ノ樂ニテコレハ山外ニハイヌ

蟹ヲ持テ居ル人ノ前ニ  
毎日整テ者ニテ即五

五柳

種秫

後見

刊鈐録序

コレハ鈐録ヲ板行ニスル決  
殊先生ノ自序ニ至テ流ラタルコト後人吾輩ヨリ極美スルハ誠ニ入ラヌ

ソノ事ハ述不申只板行スルニキ書物ヲ板行スル始キ  
ヲノヘテ其内ニ至極鈐録ヲ稱美スル事ハ

甲寅之冬 振武之意也

此段ハマウ板行スル評議ノ起リ云○國家ハ公庭ヲ振  
振武ト云時武藝中ノ一トナラズ

物士強之 窮愁之

此段ハ右板行ノ評議ヲ致生ヨリ相隣ニ及ヒ先コト云○士強ハ時  
ノ致生也○窮愁ノ字 談兵ハ兵字ノ咄コラスルヲ多ク辨此此ト和漢

古今ノ軍學ノ説ヲツキ合セルト後方家ノ秘訣ト其和漢者ハ軍學者ノ秘訣ヲ見ヒラカレタリ云○  
推失得ハ出来不出來ヲ評議スルニ至テ是ノ後ト但先生ノ一評ヲ立ラシムルハ藏名山ト秘物ニテ  
シタル乃即所記其文ハ南郡ノ文章ニ似テ生ノ著述書目記トテワシモ先生秘サレルコトヲ  
コシアルヲ云其附ニ至ルニ其後ト著述書目記トテワシモ先生秘サレルコトヲ  
當時ニテハイウ方ニモ無シコレ固物多ク載レル事ト云シハ鈐録評議シテアルハ物ナレシカ  
鈐録ニ全備ヤト云物ニハ鈐録ハ板行シテモイカト云心ニ公之ト世ニ流布スル

濟曰 コレヨリ後述右相談ノ返答

有是哉 抑亦有命也夫

此段但先生ノ著述物セニヤリテ不減板行ニ成ルニ鈐録  
リ今ニ板行ニ成ラズ居ルニ○藏舟於夜評議ニ在リ語三

物ヲ大切ニシテ置テモ... 蓋有慮也... 此段ハ上ヲ承テ板行ニナラズ...

且夫夫子... 蓋有慮也

此段ハ上ヲ承テ板行ニナラズ... 蓋有慮也... 此段ハ上ヲ承テ板行ニナラズ...

享保十四年 舟未或省焉

此段板行ニナラズ... 舟未或省焉... 此段板行ニナラズ...

方今海舶之盛不盛事哉

此段當時ノ海時勢カ昔トカハ... 方今海舶之盛不盛事哉... 此段當時ノ海時勢カ昔トカハ...

乃兵家者流之為今日也

此段ハ上ノ所慮也ヲ承ク... 乃兵家者流之為今日也... 此段ハ上ノ所慮也ヲ承ク...

然則雖微も非邪

此段は上段より星洲板行にせよと云ふ事○星洲板行は天下中テ打ヤツ

テ置テ概シテト云意先年板行和泉守條御勤仕中 鈴録ヲ御開板ナサレ度思召コナリ 御相談ニ  
成ルルヲ暗ニフクニ候 命也云々 是モ鈴録ノ板成時節ニ何ノ遠慮ナリ板成ニテ  
人ノ為ニモ致シカ好イト云々 乃有日名ニ寄リ云々 予度ノ邦山位人モリ口ハ公送御主  
意ヲ專トスルハカリニ無リヤハリ但係先生ノ思召ニ叶フテハ無イカト云々

且濟聞之云、為之序

此段は法ニテ板行カテキタラハ書ニ付テハ附録ニモトコカラ  
カ出テケルモ知シスト云々云々 神物必有合トハ考ハ張  
華ノ向テ將莫邪ノ一對ノ多劍ノ内テ將バカリ手ニ入ル寸 神物ニ付テハ一ツニ成ル物ニ其内ニ其莫邪ト  
一對ニ成ラフト云々云々 有之鈴録ホドノ物ニ其内ニ其莫邪ノ録モ一ツニナルテアラフト云々  
云々何感也 森生此等ニ右次弟ニ板行スニ何遠慮スルベキ様平ニズニ板行サシカコヤラフト  
ニタルニテ候

若夫斯書云々

コレハ一ツト餘計ゴトラ認メテ置ルニテ候 鈴録ノ書物カラノ一ハコレハ此方  
共ガミナリニサハグリテホメタトテ但係先生ノ御目ニ付テモキズラ見出シテ云々  
トテ先生ノ瑕瑾ニモナラヌト云々此方共ノサハグリハイツ又ツモ皆世ノ人カヨイワラ承知シテ既ト申云々

宇佐美 鈴録序

此序ハ專但係先生ヲホメテ此書ヲ能用ル寸ハ天下ニ差アルツシ論レテ書ル  
ニテ候

余讀斯録愈益歎但係先生真儒而王佐才也

此奈瑞但係先生ノ非  
常ノ人ナルヲ云々○真

儒而王佐才トモト但係先生ノ御目ニ付テモキズラ見出シテ云々  
ルニテ皆備ナリテ云々 天下ヲモ容易ニ治スルハ左様ノ人ハ其ノ儒者ヲ天子ヲ輔佐スル才ト  
云々云々云々

先生不謂乎六位之道包括無遺故觀古於六位者聖人得而己觀六  
位於今者聖人可復生云々 殆百餘年

ハ但係先生ノ六位會業引ニコレハ語ニテモ 包括無遺ハ天下ノ一何モカモ六位ニ備ナリ居  
ル云々 故觀古於六位者云々六位ヲ以テ古代ノ様子ヲ觀シハ聖人ノ道ナリテ聖人ノ道ニセ  
ガルナリ六位ヲ以テ當時ニ引アラテ、當時ヲ治テ行クハ東ニハ聖人ノ道ニ出ルルモ同  
シトナリ以上但係先生ノ語 先生云々六位云々 其壹奧トハ極意ヲ極メラレタル云々  
謂古之人云々 所當也コレハ先生ノ了簡ヲ拍御シテ云々古人ハ思用云々ハ内命ニテハ宰相ニテ  
政事ヲ取り外御軍事アハ大將ト成ラ出ルニ云々居ルハ軍法ヲ守ルハナラヌト思ヒテ乃有  
此録ト鈴録ヲ認メラレタ 而右板云々コレハ仔細有テ  
云々今口迄板行ニナラズニ居ルト申云々

近有外夷之教云々一二於其間也

此段當時勢ヲ人兵云々者テコレニ天狗ニ成  
一ツ云々○備不慮善意云々ト亦常ノ事ナ

カノ印先帝ニテリル也 諸君之甚勤矣、諸大名若、家中、御發衛ニテハ、心掛ルニ殊外ニ賞折ラル、ソ云 於是乎傳海之内、相高、  
リ公邊ノ御發衛ニテハ、心掛ルニ殊外ニ賞折ラル、ソ云 於是乎傳海之内、相高、  
トハ天下中、ソ云モ、クテ、ニ兵字ノ咄、シテ武藝ヲ專トシ、互ニワザ、ハノ自慢ヲ仕  
合フテ、曰我兵、為陳、之、抗腕也、ハ、和右、通、ハ、リ、合、事、自、慢、ク、ス、ヲ、モ、テ、申、ス、ニ、此、方、ハ、上、手  
ニ、佛、ト、ス、又、此、方、ハ、上、手、ニ、人、數、ヲ、シ、マ、ス、ナ、ド、ノ、シ、リ、合、ヒ、テ、但、シ、テ、ウ、テ、サ、ス、ツ、テ、居、ル、ト、申、ス  
逐、影、御、音、尋、名、路、ト、シ、テ、此、方、ハ、上、手、ニ、人、數、ヲ、シ、マ、ス、ナ、ド、ノ、シ、リ、合、ヒ、テ、但、シ、テ、ウ、テ、サ、ス、ツ、テ、居、ル、ト、申、ス  
無、ニ、其、其、間、也、ト、右、標、ノ、者、ガ、ク、無、イ  
ト、ハ、イ、ハ、レ、ト、申、ス、也

### 是錦也、不其然乎

此段上ラ、承、テ、逐、影、御、音、尋、名、路、ヤ、ウ、ノ、者、ハ、雲、泥、ノ、相、違、ニ、テ、  
皆、根、カ、チ、ア、ル、ヲ、ナ、ル、ヲ、テ、首、段、ヲ、法、ブ、○、專、主、ニ、威、氏  
ハ、明、ノ、威、氏、南、境、ノ、名、能、光、字、元、致、有、名、大、將、紀、新、書、陳、兵、官、記、中、著、ス、甲、越、ハ、甲、川、流、後、  
流、リ、威、南、境、ノ、名、能、光、字、元、致、有、名、大、將、紀、新、書、陳、兵、官、記、中、著、ス、甲、越、ハ、甲、川、流、後、  
モ、ト、ス、標、ニ、シ、タ、ル、物、ナ、ル、云、上、手、利、賊、ニ、制、賊、ハ、一、尾、ニ、記、テ、所、專、ラ、軍、機、ノ、タ、テ、方、ヲ、云、水、火、攻、法、ハ、  
軌、ノ、卷、ニ、記、ス、ル、所、ソ、ノ、イ、標、マ、テ、ク、ハ、リ、忍、ん、ツ、申、ス、蓋、此、既、防、未、也、云、此、鈴、録、ヲ、見、ル、ハ、  
年、前、ヨ、リ、未、也、イ、ウ、カ、チ、テ、知、テ、用、心、セ、ル、者、デ、モ、ア、ラ、フ、蓋、此、其、見、テ、コ、レ、ラ、皆、先、生、ニ、位、ニ、シ、キ、  
所、ヨ、リ、ワ、キ、出、テ、来、タ、物、ト、シ、テ、而、乃、以、孫、安、以、下、云、云、コ、レ、ハ、祖、伊、先、生、ニ、位、全、業、引、テ、後、世、ノ、書、皆、  
六、傳、ノ、傳、信、デ、ア、ル、ト、ハ、レ、ス、ラ、本、ニ、テ、申、ス、ル、ニ、テ、孫、安、七、書、モ、先、生、ニ、ヤ、リ、周、礼、大、司、馬、職、ノ、文、ノ、  
傳、信、ト、見、テ、居、ラ、ル、ノ、テ、ア、ル、シ、バ、ハ、リ、兵、書、モ、二、位、ノ、外、テ、ハ、ク、無、イ、ト、申、ス、則、西、ノ、可、後、生、者、  
云、云、前、ニ、先、生、ヲ、謂、ニ、西、ノ、可、後、生、ト、ハ、レ、ス、ル、所、今、日、只、今、ノ、タ、ス、フ、カ、出、来、ル、ト、申、ス、則、先、生、ノ、居、  
云、云、ト、ハ、初、ニ、タ、ル、如、ク、先、生、ハ、真、偽、デ、モ、佐、ノ、オ、テ、ア、ル、ト、シ、タ、ル、モ、尤、デ、ハ、無、イ、カ、ト、申、ス、也

### 方今國家之、不常也

此段時節ノイワセ、鈴録ノ去モ昔時ノ行ハ行ハ、時節  
ヲ云、○、初、段、大、體、云、云、此、程、大、船、ヲ、作、ル、モ、大、砲、ヲ、  
鑄、ル、モ、亦、先、ニ、成、リ、タ、ル、ハ、時、節、ト、シ、テ、無、イ、カ、韓、道、ニ、モ、時、節、ト、シ、テ、物、ハ、外、ニ、有、ル、物、ニ、テ、ハ、無、ク、上、ニ、シ、テ、  
所、ウ、ル、人、ノ、成、ル、カ、時、節、ト、シ、テ、分、出、ル、ト、シ、テ、ハ、レ、ト、シ、テ、乃、在、上、者、云、云、亦、初、段、ノ、編、後、第、四、尾、  
ニ、記、ス、ル、所、制、賊、ノ、編、後、第、四、尾、ト、シ、テ、一、カ、ヲ、云、云、鈴、録、ノ、道、ニ、致、シ、タ、ラ、ハ、六、ヶ、敷、ヲ、モ、ア、ル、イ、ト、シ、  
義、云、云、以、此、教、ヲ、求、メ、テ、ニ、此、鈴、録、道、ニ、教、ハ、テ、行、タ、ラ、ハ、大、砲、ノ、ト、リ、シ、モ、神、ノ、サ、ノ、標、ニ、手、カ、ニ、テ、キ、  
大、船、業、方、モ、前、後、左、右、自、在、ニ、テ、人、ノ、勇、氣、武、藝、並、也、實、地、ニ、身、及、テ、水、中、ヲ、モ、踏、込、公、標、ニ、成、テ、  
ア、ラ、フ、而、台、花、八、門、ニ、テ、六、花、ノ、原、ノ、陣、ニ、八、門、ハ、孔、明、ノ、八、門、也、甲、右、標、九、陣、ニ、モ、奇、ニ、ソ、ノ、  
変、化、セ、タ、其、中、ヨ、リ、出、テ、ク、ル、ト、シ、バ、則、其、陣、差、ニ、テ、御、發、衛、ニ、用、テ、ク、ル、此、方、ノ、云、云、無、ク、テ、ヤ、  
ル、ト、シ、テ、也、若、但、認、テ、モ、シ、テ、假、名、書、物、デ、ア、ル、ト、云、テ、ウ、ク、テ、後、手、ハ、彼、國、ヲ、恨、リ、タ、ル、馬、服、君、  
ノ、子、ト、同、様、デ、ア、ル、馬、服、君、ハ、戰、國、親、名、將、也、道、格、ト、シ、テ、親、書、ヲ、後、テ、親、讀、海、ス、ル、親、コ、レ、ヲ、座、  
ス、ル、ヲ、能、ク、シ、ヒ、親、ノ、馬、服、君、亦、モ、嘆、息、シ、テ、城、將、也、軍、事、ヲ、深、リ、シ、レ、フ、コ、ナ、フ、テ、ア、ス、ト、シ、テ、ク、リ、ニ、其、後、  
表、也、改、ラ、シ、越、松、指、揮、官、カ、ス、シ、テ、國、道、ニ、表、ク、ハ、兵、書、ヲ、讀、ム、バ、リ、デ、ハ、合、戦、デ、キ、ユ、シ、イ、フ、  
○、大、段、中、ニ、テ、此、時、節、ノ、年、ニ、シ、テ、ソ、ノ、人、ト、云、云、

### 茲錄百餘年之、亦時矣哉

此段前段ノ時ノ承テ時節ノイワセ、  
鈴録ノ年餘、枚、行、ニ、テ、コ、ノ、度、郡、山、落、ニ、テ、  
公、邊、ノ、御、用、心、ノ、思、百、ソ、的、テ、ソ、ノ、人、ノ、為、ニ、モ、セ、ト、テ、藏、板、ニ、サ、レ、リ、  
モ、全、ク、コ、レ、モ、時、節、即、カ、東、カ、下、ニ、物、デ、ア、ル、

越松馬服

鈐録跋

物昌

コノ跋板行スルニ鈐録ナレバ君彦ヨリ仰付タルニ一板行スルトニ返ラセマシ  
今ノ義聖堂門名昌字士綰但来先告リ五代ニテ玄孫ニアメリキ

先子所著鈐録二十卷當時閱之帳中不使人妄借見之則

非可梓之書矣

先子先祀ノ一書ハトツル義ニヤリ叙スル意ニテ  
又先子著述サレタル節ハ叙シテ其ノ旨ヲ示スル也

叙シテミタリニ人ニモ見セラレザリシ由ナレハ一併  
板行ニトスベキ書物ニハアラスト申ス

世に其書ヲ神權ノ帳中將公ニ奉ルル  
モト基尾ノ帳中漏御ヲ出リ

而近來落于人間傳寫者甚多至魚魯相混文字義不通豈非一

嘆息乎

魚魯相混トハ文字ノ誤ヲ云魚字ヲ誤テ魯ノ字ニ成リ亥ノ字ヲ誤テ成ノ字ニ成リ類字  
シ誤リ多シテ混亂ス義國ノ限ノ如シ○此改世上ニ出テ進ニ字匠者アルニハ

文字ノ誤多シテ文字義モワカズ  
嘆息ノ次チテアルト申ス

甲寅之為我公有命據家藏本板而梓之以頒諸士蓋欲使博於

兵學也

安政元年ノ十月君彦ヨリ御遺書家藏本ヲ元トシ板行スルニ梓ニ仰付ラ  
レ即家中ニ存ケ下サルベキ御遺書ハ即家中兵學ニル者ニ一編ノ杓子也

規ニテラ又標ニト云思也  
ト見スルト甲寅也

此書既落於人間梓之何妨自今之後以此公於後者庶免

不通之歎矣因聊言所以梓不可梓之書焉乎尔

矢嘯  
五五ノ奉

人ニ嘯ハ左無異於吾ニ嘯矣トアルカリ同意ニスキ好ム者ト云意ニ用候同好ト云ト同シ  
坐候 前ニ申由リモハヤ世上ニ江山ノテアル書物ノ次々ト板行ニシテモ昔アルコト以  
後板本ヲ同好ノ人ニ見セタラハ彼魚魯ホノ文字ノ誤モナク又義直ニアルコトモ  
依テ板行スルコトキ書物ヲ板行スルコトワケラ一寸申述ヘテアルト甲寅即生候

題鈐録再刻尾

此跋ハ再板ニ致シタル誤ラ候再板ト申スハ一併此鈐  
録安政元寅十二月ヨリ取懸リ翌卯ノ十月迄ニ三板

行モ九分九厘出来候ニ候處十月二日ノ大地震ニテ残ラズ燒失仁候其頃倉ノ所ナク未タ  
板行出来不申候板本師ノ方ニ有ニテ其ノ誤ハ残リテ是ヨリ郡山ニテモ大變ノ中ニ其ノ誤  
ナリニ見合セニ成可申候様ニ云候中ニ奮激致シテ者コトアリ遂ニ又改メテ取懸リ候ニ  
右付未タ出来上ラサル内ニハ再刻ニ相違無クテ再刻ト刻メ候 題尾ハヤリ

翻弓往々有資焉

政ノ作テ... 此段天地ノ間變化ノ極リナキコトヲ述ビ兵ヲシテ象トシテ見ルニ...

韜畧而下之有擇焉

此段上ヲ承テ兵ヲ用テ變化極リ無キコトヲ示シ...

郡山之刻々用兵之道焉

相因トハ虚カ實ト成リ空カ虚トナルヲ申候... 夫以名世之才不以勇効之乎...



或テ板行ニテラ申ス成る坂ニ有る後成ト云フ其ノ事定カニ以テ常流トハ人モ書物ニ  
 非テナルニハフノ書物ヲ板行ニテラ申スハ中ニ下流ノ事アリテ又ト申ス不傳不流ノ事トハ  
 氣上ノ事ナリ者不流ノ事トシテカリノ者モヨリク勇氣ヲ出シテ退屈セシメテ又ト申ス全編兵ノ事  
 至リテ申スハ勇氣ノ文字ヲ以テ止マシテ一俣内ハ此再刻ノ事トシテ退屈セシメテ又ト申ス  
 板行ニテラ申スハ先ツカウニ地底ノ中ヲ居ラスニ再刻ノ事トシテ退屈セシメテ又ト申ス  
 体人ハ但来先生ト云フ名世ノ才人ナリ書物ニ並ニ又天地ノ奥意ヲ説アセシムル物サレハ人モ非テ書  
 物モ非テ書物ニ並ニ又天地ノ奥意ヲ説アセシムル物サレハ人モ非テ書物ニ並ニ又天地ノ奥意ヲ説  
 フタヒ出ルルナトイカモ不思議ノ事トシテ退屈セシメテ又ト申ス中ニ並ニ思ハクニユカ又ソレニ固テ掛リノ衆モ中ニ並  
 ノ用ニテラ申スヨリク勇氣ヲ出シテ退屈セシメテ又ト申ス中ニ並ニ思ハクニユカ又ソレニ固テ掛リノ衆モ中ニ並  
 兵道ノ外ニテラ申ス申スニ御坐候

⑤ 五柳 種秫

門毛碧柳似陰潜 此は李白句の門前柳

門前五柳幾枝低 門前ノ五本ノ柳ツ枝ハ低ク

却笑陶彭澤何因便去 上役ノ人ニ腰ヲカ

官 陶淵明ハ何カ奉事ヲコトハツタカケツクオカシク

偶然折腰罷 メルヲ大或トモ何

公田種秫不種秔 秫ハ酒ニ作ルベキ物和名モチア人統ハ稗ト同モウ

門看五柳 オモヒ出サレ

轉憶陶潛歸去來 陶淵明ノ歸去來ヲ云フ

門看五柳 オモヒ出サレ

狂歌五柳前 五柳ノ多邊テラクモナク

五柳 歌ナドウタフテ居ル

高且疎 五本ノ柳ハ疎ノ外ニヒテソノ上

酣歌歸五柳 歌ラウタフテ五柳ノ陰

五柳先生本在山 五柳先生モ元ト山

陶家習先隱種柳長江邊 陶氏説

陶令日之醉不知五柳青 淵明モ毎日醉テ居ルニハ折

柳深陶令宅 淵明ノ

門前五揚柳 門前ニ五本ノ柳

柳深陶令宅 淵明ノ

進ノ風ニテ今モ淵明ノ様ニ 淵明モ毎日醉テ居ルニハ折

江邊柳ノ種テ住テ居ル 淵明モ毎日醉テ居ルニハ折

知ニ酒ニ醉テ居ル 淵明モ毎日醉テ居ルニハ折

門前五揚柳 門前ニ五本ノ柳

柳深陶令宅 淵明ノ

何日到彭澤 長歌陶令前  
二柳カス山 種アリ イッ彭澤(行テ陶陶明) 陶令前

前五柳春 陶陶明ノ門前ノ柳モ春ニ成ラ  
五柳ヲ種テアル陶

柳三蕭、映日斜  
柳モ秋ニサミシクウラカヨシクニテ枝ガ 夫戸春風五柳

斜 入ロノ右ニ柳カ有ラ春風ニ  
門前五柳看長使君時、来數条馬ノ柳

門外蕭、五柳斜  
門外ノ柳モ斜ニ成ラ

君最佳還知五柳  
ソコモトニ六殊ニ柳ニ種テ来 五柳

陰、過酒清 柳ガコシモリトシテ酒ニ  
青ニトウウリテ見ユ 五柳青、醉裏春  
一盃梅嫌テ見

不必憂生事 深耕種秫田  
サワタリノ活計ハ何トモ一白

折腰君自若 人道崇桑處士家  
相報上役ノ人ニ腰 自買南山種秫田  
南山ニ秫ヲ種ルガケ

田地ヲトノヘテヨリ 那能長作折腰人  
イッヅテモ人ニ腰ラカメテ 歸来

不改門前柳 五柳ハモトノマデアル  
イヤナ思ヒラ 五斗爭當折人  
シテ腰ヲカ

擬歸來筆 文章ハ歸去来ノ  
五柳ノ心 辭

澆酒 澆酒中ハアレバ澆ヌキ酒ガ異イ  
○桑康ハ桑ニ作り先酒ニキミ 陶

令歸去来思家新酒熟 陶陶明ノ歸去来ノ辭ヲ作り先モ  
兼テ内ニ作り置タル酒カナレタ時ト思フ

澆酒用葛中 葛布ノ頭中デ  
酒ヲコス 常後澆酒生  
不所陶明ノ様ナ 五柳

先生澆酒中蕭然東壁掛青春  
コレハ酒止メ先時ノ詩○五柳先生

壁上常懸澆酒中  
病中ノコトニ平生

為報陶家新酒熟黃花三徑待君看  
此方ノ仕入ノ酒

又旅頭中迄不用テ壁ニヒツカケテ有テ此春

サキウラクシイ時節ニモ澆物サミシイ様子アル

ニテ ぬ供壁ニブラ

サゲテオク

三ノ

出サレヨ三注ニ控テアル菊モ咲ガソコト  
ノ御出ラ侍テ一回ニガマヤト云テアル  
去國此采陶令醉 加コラ出テ采桑ノ御出ラ侍テ一回ニガマヤト云テアル

中餘酒痕 頭中ニ酒ヲコシタカガ 流麗壁間挂為中 酒ヲコシ仕テ

脱巾幾度醉春酒 頭中ニ酒ヲコシテハコシテ幾度

為報使君多泛菊 更將信管醉東籬 世上一任

欲近尋彭澤宰 陰然共醉

菊花杯 欲ノ字ノ上具字ヲ脱ス 可惜陶潛

無限興不逢 雜菊正用花 陶淵明ノ無限ノ興モオシイコト籬下

黃菊映秋田 東籬ノ菊ガ映テ田 從來菊花節 早已醉東籬 九日

朝夕得陽郭 白衣來幾年 得陽郭住居テ

白衣人盡酒文遊 酒ノ友ダケガ無マツ

陶潛官罷酒 瓶空門掩黃花 一逗風 官官字

賴有淵明同把菊烟

東籬空

陶潛菊盈把 陶淵明ハ菊ヲ盈テ

因招白衣人 笑酌黃

花菊 白衣ノ人カ酒カ送テ来テクシタラ見カケテ手招ラシテ

握鋏東籬下 淵

明不足群 蘇軾ト同ニ握鋏ハコセクシテ

每恨陶彭澤 無錢

對菊花 每度残念ニオモフ 陶淵明貧窮テ菊ヲ愛シテ

黃花不減東

籬 籬色 菊花陶家ノケニ

官非彭澤先生 隱酒似得陽太守 推乃此

方

ル白衣ノ人モ無

陶淵明モ奉公ラヤメテ酒モ思フヤウニハ飲シ文門モ平生

タテコメテ只門ノ通路ノ小ミチノ雨戸ニ菊アハク咲テ風ニ吹セテ

郊四望夕陽曛 淵明ノ様ナ友ガ有テ一同ニ菊ヲ把テ賞悦スルタ

繞未開花 菊ハマカキアタリニパイアシ

負他黃菊滿東籬 菊花カ東籬ニパイ

因招白衣人 因招白衣人

笑酌黃花菊 笑酌黃花菊

握鋏東籬下 握鋏東籬下

淵明不足群 淵明不足群

每恨陶彭澤 每恨陶彭澤

無錢對菊花 無錢對菊花

黃花不減東籬 黃花不減東籬

籬色 籬色

官非彭澤先生 官非彭澤先生

隱酒似得陽太守 隱酒似得陽太守

推乃此方 推乃此方

陶淵明ノ様十陸者デナケレ氏アヲ々様ノ御方酒ヲ  
御持参下サタニ尋常大守ヲ陶明ノ所ニ月身酒ヲ持テ行ヒテ自様  
カラ菊ヲナガメレバ相尋ズモガキニ  
一ハイ咲テヨロコバシイ  
樽前無恙滿雜菊 酒ヲ  
東山雜色ハハイヲ菊カ咲  
ミダレテ底ニエハ酔分ニハ居コ又

莫笑陶家乏酒錢 陶淵明ノ宅ニ酒家テロクノ酒ヲ  
トノノハル錢モ無イラ笑フテ下サルナ  
餘花可贈君 陶淵明ノ内ノ菊テアルカライサ、  
カチカラソモトニ進ゼズハ宜アリ又  
以上五條 六月廿六日  
四十二度

⑤ 羊祜

羊公碑尚在讀罷淚沾巾 羊祜ノ隨侯碑  
ハ今テアルカ成  
歇馬獨來尋故事逢人惟說岘山碑 岘山碑  
程遠テミレバ淚ニリル  
バカリテアル  
來所馬ヲトメテ極力尋ヌ人ニ逢テ聞ケバ  
シキリニ隨侯碑ノバカリニテキカセル

不妨羊祜數登臨 羊祜トリ、度、漸進山アル  
イサカスニリ無イ  
開府羊公惠愛深 此度別段  
府ノ用カシ  
羊公所同標ニ下、ノ御イタワリカ至テ深イ○開府トハ三公ハ別ニ府ノ役所ヲ開イテ自分手ニ  
テヨキ人ヲ見シテ召出シ下役ニ申付ルラ申候尤三公ニ無テ氏三公並ニテモ何カ見ナ  
府ヲ用ヌトモテキ候是ラ  
開府後同三司ト申候

開府今羊祜 羊祜トリ、度、漸進山アル  
モトヨクハ此度府ヲ開ビテ  
フコトノ今羊祜ト云モノナラシ  
岘首羊

公石千秋淚不禁 岘山ニ昔シ羊祜ノ碑カアルカ千年  
ノ今トモ淚ガ流シテトメカ子ル  
為問羊公石

徘徊馬去遲 隨侯碑ヲ尋子見ルニ付テハ至極苦ノコトヲ  
思ヒ出サシテ立去ニクアル  
已隨岘山淚 岘山ニ來テミレバ空  
ノ羊公ノ碑ヲ見ル物ニ  
涙ガトガニル  
思ヒ出シ今ニ淚ガ  
コホレル

空思羊叔子隨侯岘山頭 岘山ニ來テミレバ空  
シク昔ノ羊叔子ヲ  
岘山ニ上ルニ  
誰ヲ相手ニ  
思ヒ出シ今ニ淚ガ  
コホレル

岘山誰與同臨眺羊祜碑前一浩歌 岘山ニ來テミレバ空  
シク昔ノ羊叔子ヲ  
岘山ニ上ルニ  
誰ヲ相手ニ  
思ヒ出シ今ニ淚ガ  
コホレル

叔子峴首獨悲哀 獨リカナシム  
淚隨岘山外思人立碑 岘山ニ來テミレバ空  
シク昔ノ羊叔子ヲ  
岘山ニ上ルニ  
誰ヲ相手ニ  
思ヒ出シ今ニ淚ガ  
コホレル

前 牌疑碑誤○岘山ニ來テミレバ空  
シク昔ノ羊叔子ヲ  
岘山ニ上ルニ  
誰ヲ相手ニ  
思ヒ出シ今ニ淚ガ  
コホレル

桃源 寥々一犬吠桃源 一正ノ犬カ桃源テ吠ルヲ聞ケル  
當更土地ガレゾアヒ思ヒ  
桃花源書目  
隨流水洞在清溪何處邊 童子モス桃花源ハ心ヲ清溪水ニワレテ流シ行ガ  
洞ノ口ハ此處後ノドノ邊ニアルヤラシ  
何知桃花裡深居作隱淪 柳山ニ中ニ奥深ク住居シテ  
ニテヲトハ思ヒモカケ又コトアルタ  
笑謝

桃源人花紅復來觀 イトゴイスル時笑ヒカウニ今度又此 推其初傳

漢姓名居人未改秦衣服 漢人が云レバコソ漢ノ天子ハヤウクノ姓名ト云フガハリ桃源中人ハ秦時ノ人ニ今以

秦人衣服ノ作り居人共住武陵源 土地者ハイウレモ桃源ノ中ニ住ヒ居ン 日出

雲中雞犬喧 田舎ノ聲ガヤカシイホド 春來偏是桃花水不辭仙

源何處尋 一ニ何ヲ目シルニ桃源ヲ尋チヤウヤウノ様ガ無ク 桃源勿遠返再

訪恐君迷 桃源ニ来ルニハウロタヘテ収ラヌカヨイ又ト云テ尋テ 桃源迷漢姓

誰賞花源遠 桃源ノ遠クハカヤウニ面白日ノニ 莫

學武陵人暫遊桃源裡 武陵ノ人ノ様ニチヨト桃源ニ遊フホドニテ 悠然策藜

杖歸向桃花源 心モユルクトアカサノ杖ヲウキナガラ 寧尔桃源心

明朝更訪桃源老 明日又アロ桃源ノ老人ヲヨリヨリヤウ 卧入武陵花

卧ニテ見レバトシト武陵ノ 桃源ノ心持ニナル 聞近住桃源無村不是花 承玉ハソコモト也

武陵川路狭前棹入花林 武陵ノ水モ此ノ幅セウ成テ来リニハ 桃源無

處求 桃源ハ尋チテモ尋チ 欲識桃花最多處前程問取武陵兒

桃花源君名許誰遠亦相尋 桃源ノ中ニ入ル

花落尋無徑難 桃源ノ中ニ入ル

桃花流水 桃源ノ中ニ入ル

杳然去别有天地非人間 桃源ノ中ニ入ル

桃花有源水可以保五星 桃源ノ中ニ入ル

洞裏有春窈窕人間無路月茫茫 桃源ノ中ニ入ル

桃源ノ中ニ入ル

ナカメテ戻ルバカリ花ハ六月ノハナ  
ト云々此ニテ行クモテマシテ  
取ルニハコトヲ来マウト存スル  
花ハ今ラシテ下サルナ  
明年二月仙山下莫遜 桃花逐水流 来年

問津疑矢桃花水 水ヲ観バサウカトフニスルニハ  
仙去桃花渡已

春樽疑對武陵花 春サキ桃花ノアタリテ酒ヲ飲テ居ルトウカ  
武陵ノ桃花アリニ辰ヤウナ心持ク  
仙去桃花渡已

速 仙ノカドコカ行テモラテ  
水ササト流シ中ミワラシ又  
相逢野老殊顔色 莫問桃花何處紅  
ノ老人カイヅレモ並人向ノ様ヲテ無イカラ桃花  
ハドコデアルト向ズトモ此処ガ桃源ト云ラレシ  
世ヲ避ケテ隠スルハ出来ん何モ桃源ガカリテハ無イ  
○独往モトモ存スル隠者ノ浮世ニカハズ斷居ニシテ居ラズ  
当ニサガ

不是桃源地 虚疑物外逢 桃源ノ場所テハモトモト即目ニ  
惹テモシバイカニ世界ハナシノ境ニ逢ケ様  
ノウ

無人再識桃源路 桃源ニ度行メ  
ト云人ガ無イ 桃花猶識避秦人  
ヤハリモ  
ノ乳ヲサケテ武陵ニ引ル人同様ト  
考ヘラレ

岸夾武陵花 武陵ノ兩岸 桃花咲テ居ルヲ  
却  
種武陵花 ウヘコト 家在桃源穩ト居  
桃花原ノ中ニ住居モテ至極心  
ワダヤカテ見シテガヨカワタ

不是桃源水 何人漱落花 桃源ノ水デ人カ賞玩スルニ花ノ散テアル  
水テロラララサモナクハ口ツララ人モ有テ

桃源人其深六如此 桃源ノ人ガ此様ニ奥深イヲガ  
却疑武陵口溪水 似テ居ルデアラフ

入花林 此谷川ノ桃花ノ向ハ流レコムヲ  
仙家犬吠白雲間 似テ居ル  
中テ犬ノ聲モ  
人卧桃花源 桃源ノヤウチ奥深イ処  
和似武陵溪人  
中テスル

家緑樹迷 此処ニ至極物シツカテ家モ樹木深イ中ニ有テ  
人カサソ尋マモルデアラフト武陵溪ノヤウチ  
徑迷滄上路 後  
武陵人 人カ路ニ迷フテ却テ仙境ニ行テ名高ク送セ残タ  
憐君也自武陵  
ソコモトモヤハリ武陵ノ人ニ  
似テアルカシホラシヒ

晋時花色表余時色 武陵ノ花ハ昔ノ時ノ花ガ  
ラヤハリ表余ノ時ノモヤウキ  
マカレ

マカレ

七十二候圖序

文宣之外聖人知而不論之者之內聖人論而不辯一寒一暑  
齊民之要聖人辯而不悉故辯而可悉也者非辯之至也  
論而可辯也者非論之隆也知而可論也者非知之盡也

此段天地陰陽の道理の外に説く事無く道理ハイハ程精密に説クレバトツラクハ一物無  
キ物ニハ一物ナキコトヲ申出シ候○六合ハ天地四方ハ齊民ハ人ハ物ニ對シテ義○此意ハ六合  
ノ外目見又ハ一聖人ハ神存シテモロハ出シテハ六合ノ内ツラクハ口ニ出シテハ一物無  
五ハ凡辨別シテハ五ハ凡一寒一暑ハ四時ノ運行ノ一ハ農業者ノ先務人間ノ簡易ナルコトヲ取  
辨別シテ示シテハ五ハ凡一精密ニ道理ヲイハレテハ五ハ凡一以テハ辨別シテ道理ヲ精義ニ  
云々ハ一辨ノ至極トシテ論説シテ辨別ノ出ルハ論説ノ隆ニハ一ハ凡一知リテ論説如  
クハ凡一知リテ先ニテラス古真ニ知リテハ凡一論説ハ辨別セズハ辨別セズハ辨別セズハ  
者ハ精義ニ道理ヲ云々口ニ出スハ一ハ凡一知リテ申出シ候

何以言之天之蒼蒼其正色邪日月行星辰列其拘繫焉邪  
萬物資始其有神宰邪不知所由始不知所由終杳冥焉

フニシテセヤキ

恍惚兮豈言之所論而辯之所悉邪帝之命義和為是  
故也

此段上ラ咏ケ論辨ノ善ナキコトヲ説明シ候○正色ト持前ノ色拘繫トカケ  
ツナゲ義萬物資始ハ易ノ象傳ノ文字萬物皆天ノ氣ヲウケテ生シ出ルシテ神宰  
ハ在リテ天ハ無心ナル物ナレバ萬物皆發生長成スルハ天ノ後アリテ世ヲスルヲ一ノ天ノ父  
ノキノ上ニ就テ云タル文ニ候不知所由始不知所由終トハ上ノ三テ察ラ承ケテ天ニモコレト  
指シテ分明ニスルコトキ又ラ申候杳冥ハ目ニミテ又恍惚ト見トノデキ又良帝之命云々此  
一句上ラ法ヒ下ラ呼出シテ帝ノ命ニ候義和義和義和義和義和義和義和義和義和義和義和  
主トリタル人高書ニ命義和義和義和義和義和義和義和義和義和義和義和義和義和義和  
宅西ニ以般仲秋動命和氣定朔方云々以般仲冬ト云ラ用ヒ候コレハ以テ未タ曆カリ無ク天  
義和ニ仰付ラレテ民ニ四時ノ時候ヲ授有テ也辰星ヲサセテワラフコト申出シ候○何故左  
申スルトハハミツソラノ青トシテ辰ノ天ノ正色新アラカク虚空ニ下カラレバアラク見ルコト  
云々及日月行星ノ大宿ノ布置シテ辰ハ何ガツキ付ル物有テワラフコト引カテ辰ルカ但ハミツク  
物モ無キカドウシテ落モセズニアノ道リニテ辰ノ次又萬物資始ト云カ何義奉行世話ヤキ標  
ナ物デモアルカ但ハミツクモナク萬物ノ種ヲワリツルノテアルカ右ノコト共ドコカドウ始リテ  
ドコデドウ仕舞ナド云テモ所カモ知ズ但杳冥恍惚トシテ分ラヌ中ハ以テ口ヤ詞テ  
論説スルコト辨別シテ精義ニスルコトモデキルコトハ凡一帝ノ命ノ義和義和義和義和義和義和  
アハト申出シ候

乃命義和欽  
若曆象日月  
星辰敬授人  
時

是以觀乎天者莫大於日月星辰觀乎日月星辰者莫善

擊持下家也  
像也

於象之像也可以圖像焉河之國聖人所取則也圖之不可也  
也火矣且夫齊民之要時為本故七月陳於龜菴葭葭與於  
秦帝之授民是已是月令所以記時候而我公所以圖之  
也

此段又上承天又ノ國元リ外無事云テ觀ノ七十二候ト圖トノ文字ニ説キ入リ  
○觀半天ト天ノ標標ヲ應觀スルヲ云觀ノ月星辰者其象トハ易ト天ノ象ト云  
豎象若明莫大乎日月ト云候ヲ奉ト致モ日月星辰ノ標標ヲ應觀スルニ不象ヨリ外ニ見  
也云ト申ス同象也トハ易ト象也者像此者也ト有之云文可以圖像焉トハ易  
ニ説ケル一河之國ハ河國七月ハ詩ノ豳風ト詩農業ノ時候ヲ人ト業ヲ陳又其菴葭葭同  
ノ詩葭葭蒼蒼白露為霜トテアモノサカニ其象トトテ辰タルモ宜カトハ其時節  
次若ニ菴ハレテ其時節ト一年ノ耕作モテキ上レトテテ國象ヲ以テ記スルサカ  
時節ニテハ國モ以テ云ニ興シク九ニ候ニ興於秦ト用ヒ候ハ今ハ礼記ノ月令篇○右  
方天ノ標標ヲ觀スルハ日月星辰ヲ觀スル外ニ無ク日月星辰ヲ觀スル其象ヲ成トスル  
外ニ無ク其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云  
伏義ノ年奉トナカレハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云  
民間ノ向寧ナル農業モ時候ガツモトダニテアルニ七月ハ詩ノ豳風ト詩農業ノ時候  
トテ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云  
万姓ニ時候ヲ仰シテ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云

ノテゴサハ月令ニ七十二候ヲ説キ置キ又 御前ノシラフ國ニ御書セアリシ  
モ坊ノレエエゴサハト申スニ御書候

夫龍尾之伏辰天策之煇廣莫明庶之風何因圖像  
觀其蘊焉惟四時之變見於物而物有其形既有其  
形則戰之字言不如見之於圖之深切著明也是故聖  
人悉以空言傳也不論不可論者不辯不可辯者不悉不可  
悉也而後有能辨悉焉

龍尾ハ尾星伏辰トハ日ノ行道ニ逢テ尾星ノ見ヘヌラ云天策ハ傳説星コシモ日ニ近クニ煇  
ト炎リナキト是ハ左傳ニ兩之晨龍尾伏辰均服振之取祥之禱龍之為ニ天策煇トハ大  
軍ノ編ト其大弁其九月トハ文年トアルヲ用ヒテ廣莫明庶ハ冬至ヨリ吹麥風明庶風ハ春分  
ヨリ吹風其蘊トハ底ノ底ノ底ト云テノ意ト云フ也  
之行事トハ其若者ト有之ヲ用ヒテ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云  
天策煇ト云ヒ又廣莫明庶風ト云テ天又時候ノイラズナルトハカト圖ニカキテ  
自漢ト起テ見ルトモ出来又然レ今時ノウワリカハ草木鳥獸トニテ其物  
ナレトノ草木鳥獸ハ形方ハ物トナレバ圖ニシテ目ニ見ル時ハ向キトシテ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云ハ其象ト云

此段又天文ノ毛圖ニスルノ出来又トアリシ  
七十二候ハ國ニモテ明白ナレト申ス候



物ニシテ人ニシラスルヨリ繪圖ニシテ見セシ方が餘程人ノ身ニシテハ  
テキル右ノ説九院ニ古聖ノ何ニテモ口ニシテカキ物ニスルハ蓋カキ  
弁サントハ論争ヲ精ニシテ道理ヲ究ムルモノ也  
却テ人ニシテ論争ヲ精ニシテ道理ヲ究ムルモノ也  
ニシテハ思ハズハ画ナドニシテ見テ今日ノウツリカ  
見ルハ身ニシテ思フテ見テ申シテ申シテ

公好易言及曆圖又象而又及斯謹覽斯圖日月運行  
一寒一暑陰陽之所推遷萬物之所旺衰其用蓋消長  
之收宛然在目偉哉驗小物推而至于無垠也 公之言蓋  
有在焉

此段コノ圖ノ源流ヲ過クテ○國又象ノ先年仲夏ノ候ニ  
十四支ノ圖ヲ申ス及斯トハコノ七十二候ヲ指シ  
ハトロハ三時ヲ申シ開闔消長モヤハリ旺衰ノ如キ意ニテ  
行クヲ申シ事ノ大難ルヲ推シテ○國又象ノ先年仲夏ノ候ニ  
ヤウノ頂細トモ推ヒロケテ事ヲ大ニ推シテ○國又象ノ先年仲夏ノ候ニ  
侍リ先ノ大方向其邊ノ所ノ思名ニテモアラフト申シ  
易曆ノモ即穿鑿甚サシマニ既ニ教ノ圖ヲ仰ヒテ出スルハ付又  
サセ成セシムルナリ此時候ノ圖ヲ拜見スルハ月日ノ行道寒暑ノ  
詳テ

標葉ノ旺衰スル様樣ナド其生長枯衰ノ鳥獸虫魚ノ出  
化スル様々サガフ目見様々如何モ不思議ニ大造ノカ  
之カラ次第ニ推ヒロメテ天文ニモ至ル六合内外ノ  
知レモ致サカト思ハル但し御前モ易ノ助ケモ越  
アツセラルヘキカト云リ

圖中以辰爲蛟其說似長王瓜之爲時珍已詳其誤矣  
然皆非 公所注意也 謹序

此段ハ餘波ニ御意候○コノ七十二候ノ  
中推化爲辰ノ辰ニ辰較ノ一ニテ辰  
輪ノ類ニ非ストテ辰蛟ノ圖ニカキタルハ至極尤ノ  
李時珍誤リト云テハ誤リナルベケレモカヤウナ字  
申義○本草綱目ニ時珍曰今俗以月令王瓜生即此  
トスルハ誤リテアル王瓜ハ一名土瓜トテ胡瓜ニ非  
ト見

易學啓蒙圖解叙

天下之物萬殊理則一也以万殊为一致則理可窮尽邪 天下之物  
萬殊理亦万殊也以万殊具萬殊之理則理不可窮尽邪謂之一  
則夫一陰一陽生不已者坎謂之萬殊則火在水之下而既濟  
在上而未濟者坎理果可窮盡邪果不可窮盡邪事也物  
與有少大有難易情偽萬端而人之處世朝夕唯事至其情隨  
測而見互見則安危繫焉凡人之情我孰適哉  
此段為理之窮盡難  
キヲ述(今日ノ事業  
二義ニ多キ情ニ係ル  
○天下ノ間ノ物ハ万物トテ數カキリ無ク其道理ハ一ツテアルト見レハ  
理ト云物ト隨テ窮メラルニテ又万物ハ一ツモソシクノ理ヲソク入居レバ理モ亦万ノ相違アルコト万物  
ハ一標ナラズ其理モ其數カキリ無ク理數見ルコト理ト云物ハ中ニ窮メラルニテ物デハ無ク右ノ  
窮理ハ一ト觀ハ外テ無ク凡テ天地之間ノ物モト一陰一陽ノ生ニテ止ヌコト出ルコトハ則陰陽生  
ノ理ハ一致ト云物ニアル又一物ゴトニワレクノ理ヲ具ハルト見レバ彼同ニ火ヲ水ノ下ニ見時既濟ト成  
リ水ノ上ニアル時未濟トナルト云物ノ其時ヲテ辨リアルナレハ万物ノ上ニハテモ無キ理ト

事物之理在天上之理上之物トヨク窮マラン物ヲアツカ又窮マラレヌ物ケアラフカト申ス所也  
○事ヲ執物與テ 扱數中ノ事業モヤリ物同様デアラフ 頂細ナルコトモアリ大造  
テ此事モアリ六カキ事モアリ心易キ事モアリ人ノ願實ナルモ有リ詐偽ナルモアルニ今日人トシ  
テ此世ノ中ニ居ルコトハ朝カラ晩迄色々ノ事ガ流テ来ルコトハ小事ハ大事トシハ人ノ志實コトシ  
人ノ偽コレヲスレバ古コレヲスレハ凶ト云フハキト知リタレハ仔細無ク其理ヲ付テコト事ノ口ケハ如何  
飯事ノスガハ如何アラシ如此スレハ古コレヲスレハ凶ト云フハキト知リタレハ仔細無ク其理ヲ付テコト事ノ口ケハ如何  
事ト下ニ至リテハワガ決断必テ吉ニ成リ凶ニ成リト云フハキト知リタレハ仔細無ク其理ヲ付テコト事ノ口ケハ如何  
決断スレバ女ケレハ一ツ仕損スルコトハ危亡ニ至ルコトハ恐レキ事ナレハ人モ我モ何レモ凡夫ト云フ  
ト申スニ即セテ

於是乎古聖人仰觀俯察類萬物之情知死生幽明之故以作易

者日新天地之間備矣又有以見天下之蹟

容象其物宜繫辭焉以斷其吉凶是以象效而變化書爻然後事

情萬端少大難易有決於掌上而能用物成祐通志定業非聖人

窮理知幾其孰能與于此

大易啓蒙圖解叙  
此段聖人易ヲ作リテ今日ノ事業ノ疑ヲ決スル  
出未去ラ申候○仰觀俯察以下皆易繫辭傳ノ文

ニ據リ修其内窮理ノ文字後卦傳見言○右ノ注ニ古ノ先王聖人仰天文以觀玉而下地履ヲ察  
シ天地間万物ノ情性ハコレト次弟ヲ立ラシメ生ニ出ルルカヤウナルコト死テハカヤウ今日現在ノ模樣コレ  
クニ死後ノ模樣ハコレト云フ迄モ所存知アツテ思ヒ上ニ多ク作り出シテモトニ富者日新トテ無キハ  
リテク日ニ用ヒテ金幣用ヒルヌク天地ノ衡ノ一殘ラス備リテアン夏其上天下至賤トテ殊  
ノ外入マヅリテ聖人トイサカモ落付テ居ラヌ標チテ御覽アツテソノ形容ヲ即ウツン事物ノ都合アヒラカク  
玉ヒテソレニ一ニ云フテ付テソノ吉凶ヲ判断シ玉ヒシニハ形骸ト云物出来テ一ニ云フテ其家アリテ事  
物ノ變化ニ方ハ又ノ物ニ出ラズ 此後事情ノ万端ナルモ大ナルモ小ナルモヤスラカナルモ皆一  
ヒラノ上ニ見ル様ニ決断出来ルユ聖人間モ聊カ疑ナキ正何事モサツサト皆明キテ今日ノ事情カ成就シ  
志シモ通シ事モ定ルカヤウノ聖人ノ窮理知悉ニテアツテハ中外ニテハ 此モハ在ナリト申候  
出来ヌフテアルト申我ニ御座候 窮理ハ聖人天下ノ理ヲ悉ク知リ玉フ哉知悉ハ目ニミハ又カスカナル也

以彼其古聖人之智尚能仰觀俯察近取遠取而有作也故孔子之

聖尚<sup>ハ</sup>童<sup>ニ</sup>編<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>絶<sup>ニ</sup>而曰加我數年可以無大過矣其作十翼也贊

成易道以啓迪後人而未嘗以理為言其以理言者贊易道尔理

豈可容易言邪無形無定準也

此段上ヲ承ケ聖人易ヲ作り玉フニモ理ヲ下  
シテ即後中成サレラ述ヘ首段ヲ照シ候○  
彼先王ノ智ヲ人ノ智ニサシテ天地理ヲ即ウツテ此ノ身ニ取リ遠ク物ニ及リテ即ウツテ先王  
ノ中ニ容易ニ深意ハカラスユ聖人ノ聖智ヲモヤハリ觀モ先王ノ竹簡ノトケカ

ハガ三度直キレタルホトニ骨折テ見モソレテサヘマダ此方ニ壽命アラセテ年五十三ニ成ルル易ヲ考  
析タラズ格別ノシ扱ビアルモト仰ラレタル程ノ一ノ既ニソノ十翼ヲ作り玉フハ古聖人易道ノ深  
意ヲ發明メ後人ニシラシメラレ先物ナルカ一向理外ニ仰ラヌ只三ノ所ニ理トシテ仰ラレタル易道ノ  
深遠ナルヲ洞ホメナサレテ仰ラレタル一ノ在ホトノナレバ理トシテ容易ニハ世サレヌテアルナセナレバ  
理トシテ物ハコレトサスベキ形也又キリテシヤウギトシテキナク只物ニシテ事ニシレテアル  
モノナレバ事物ノ上ニツキテ一様ナク又物ニ容易ニハサレヌト申言ニ御座マシ

朱文ハ善易以窮理自負而本義之作則以簡渾渾以占筮抑  
宜理而程傳廢矣其蓋後人居多可不謂勤邪既又有觀  
圖書卦畫之日作啓蒙以為易之精蘊在此而萬物之理為  
一致也夫既筆其蘊因書卦畫不得以理言之既以理言之  
理無形又無定準也乃理無所不在矣則亦無所不可言矣於  
是割牛毛析髮絲精微之極涓疑之耀後人間以聽熒要之  
英雄欺人者不為不多焉至後僥輩出唱之不已如滄海之附累瓦

結繩窺句尚且不嫌於心唯理是言而本既遠矣是以如般石洞

玉齋輩与文公互有異同以理無不在無所不可言也則理亦万

殊矣為一為萬眾認不已何為於天下之理得矣

此段朱子啓蒙所作  
リテ理ヲ主トシテ  
説タルヲ甲申候○精蘊トキツスル奥意訓牛毛析替極ト目ミハ又微塵ヲモルルヲ  
後滑疑之耀ト在子字面自在ニ云々コト云テ人ヲ驚セ修養聴學ハ聞テ驚キマドヒ候フ英  
雄敷人ト豪傑ト人ヲナブリモノニ致ス意如塗附トハ土ニ土附美テ能ク一ツコトモ  
クドク申ス候ト候本ト詩多文字累尾結繩窺句ト在子字面ゴクト色ノフキナルコトモワキ  
道ナルコトモ申シテ四キホトニ云々ケル意ニ候 盤向ハ董錫字取重ト云人玉齋ハ胡安平字師魯ト云人  
モ宋人ト文公有異同トハ四象ニ對テ生ル方ノ說董氏朱子ト同カラ又析四云ニ合補四隅ト云  
説玉齋ハ以テ朱子ト同シカラル類ヲ申シ候 取法トハキニ自存存寄ヲ云テ候中候○朱子為  
テハ至テ上手ニテ且物事ノ窮理ヲ窮ルルヲ自慢セシカガ本義ヲ作ラハハ至事清浄心同古  
意味ヲキキ文ヲテテ簡古ニ書キ占並ノウラヒノ方ニ致シテ程子ノ極ニ宜理深クサレルヲ抑ラレタ  
レバ程子ノ傳モムクモノニ成テ仕舞タリ其後學ヲ為ナルコトハイカカリカカシレカソノ骨析ハ格別イニ  
アハ改又云ハソノヨリノ又河圖洛書ノ模様ハ卦ノ出來グワヒヲ發明サレテ易學啓蒙ヲ作ラレタ  
易ノ奥意ヲナシニ出ルルニ存テハ天下ノ向ノ理合體ト成タリ 夫既筆其經ヲ與意トモ相  
筆ニテ詞モ以テハ出ルルニ存テハ天下ノ向ノ理合體ト成タリ 夫既筆其經ヲ與意トモ相  
又理窟ヲ云テ見タル時ハ理ト云物ニ形モ與リ定リタルコトヲモナキコトヲトノ様ナクモ理窟

ノツカ又ハ與イ物デアルサスレバトノ様ナクモ言ハレ又トト無クニモヒホウケイト云物デアル 故是刻  
牛毛析替極ト云極ノ精微ナラ自由在ニモハシ人ヲ驚セテエハ後人モ中ニ向テ膜ヲツグニ目ヲ  
ノ微塵ト云極ノ精微ナラ自由在ニモハシ人ヲ驚セテエハ後人モ中ニ向テ膜ヲツグニ目ヲ  
クシスル様ナラオニサセテ人ヲナブリ物ニスル様ナラモ應カト見ユル 至後儒輩出テ朱子  
門人ヲ歎メ後ニ應カト見ユル 至後儒輩出テ朱子  
カクハシク辨名ニカセテヨリ様ニシマシモヒ後ニカケテマダモトクモスルコト唯理ハハカリテ  
三時ノ易ノ方ニ遠クナレテ一向易ノ用ニ立タヌコトモアル 是以如盤向董氏ニヤ  
玉齋如也トヤト云人ニ朱子外ハリ説モ出ル様ニナリタルハ全前モ難直リ理ト云物トコトモワキ物  
ニ云ハレ言ヒ改メテ物ニハナラザらん 則理ハ萬殊多シテ見レバヤハリ一理ニテハ無ク第  
種カ萬種ノ理ト云物デアらん 為一カ萬ニテ一ト見レバヤハリ一理ニテハ無ク第  
クニ月カリコトヲ云テミレバ中ニ天下ニ理ト云物トハ申サレ又ト申サレモ所在ハ

嗟天下之物萬殊理亦萬殊易之所尚占並變化以决嫌疑道  
志定業也已何以滑疑之耀為理果不可窮盡也

此段理ノ心ヲ  
ラレヌコトヲ決定  
致シテ下ノ段ヲ生シ候○天下ノ物ハ數限リナク多キコト付テハ理モソノ通リ數限リナク多キコトモ  
竟占並ヲ下ニテ變化シテ人ノ間ノ疑ヲ決定シテ人ノ志ヲモ解通シテ事業ヲキメサスルガ專一ノコト  
アハ改メテ易ノ方ニ遠クナレテ一向易ノ用ニ立タヌコトモアル 是以如盤向董氏ニヤ  
玉齋如也トヤト云人ニ朱子外ハリ説モ出ル様ニナリタルハ全前モ難直リ理ト云物トコトモワキ物  
ニ云ハレ言ヒ改メテ物ニハナラザらん 則理ハ萬殊多シテ見レバヤハリ一理ニテハ無ク第  
種カ萬種ノ理ト云物デアらん 為一カ萬ニテ一ト見レバヤハリ一理ニテハ無ク第  
クニ月カリコトヲ云テミレバ中ニ天下ニ理ト云物トハ申サレ又ト申サレモ所在ハ

故誘啓蒙者以供占筮之用則是多理外生理如塗之附放言自心者非予之所知也

此段上ノ承ケテ啓蒙ノヨミカクテ申候○右ニ啓蒙ヲ流シテ占筮ノ一冊ニ致セバオノノ只理談ニテリヤカ上ニ理談ヲモテ出ホリダイトトスルハ此方ハ不承知ニ存ルト申候ニ御座リ○以上是ニハ私思存ニ候ハ候ハ候

我公好易之餘使臣元彰進講啓蒙元彰性嚴固不明于理聽受於滑疑之耀不能諄然叩而竭焉雖之肝之厚顏從事

公之不之罪至或以國字解而進作圖而上既而公筆之書以示

元彰命其名且序之

此段國解ノ御座未至以申候○御座未至申候ナリ候  
元彰(傳)ノ啓蒙ノ講義仰付ラレタルカ元彰元來ウレシ付キ  
コマカナル処(行)面取アラクシキ故理今ノ様ナルコマカナルハ甚不得手(滑疑)ヲ羅ナルハコトニ  
ドギコギシテ不(行)面取アラクシキ故理今ノ様ナルコマカナルハ甚不得手(滑疑)ヲ羅ナルハコトニ  
トモナラズ只目バカリマシクシテ面皮ヲ存テモテ講義致シ候(凡)御座未至申候ナリ候  
ニシテ申上ケ又ハ國下ニ送テテ差出ヌコトモ有之モ其後筆記ニ仰付テ御座未至申候  
元彰ニ拜見仰付テ標題ヲモ付ケテ序文ヲモ  
認交標ニ仰出サレタリ

元彰謹觀其書自圖書卦畫至七占之法因之解之無所不在焉文公之旨諸儒之說詳備明必如然臚列以今觀元彰所圖上者十分不能一而公兼採焉蓋將以供他日占筮之用也是皆公所手自輯錄而令臣宗武寫者也於是謹命其名曰易學啓蒙圖解有附錄有別錄凡七卷

此段御座未至申候○元彰謹  
謹テテ御座未至申候ニ本圖書  
原卦畫ヨリ七占ノ法ヲモ圖書有之解モ有之何コトナラヌモ(朱子)ノ意味並流儀  
説下モ委細明白ニ御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候  
ハ十分一ホドモ足リ又程テ御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候  
並ノ御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候  
淨書サセラシク九ニテ候是ニ國テ標題ヲ易學啓蒙圖解トシテ御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候  
録モアリ都合七卷ニテ御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候ハシカラ一書綴リ有之候御座未至申候

夫啓蒙之書割牛毛析昆絲使人聽受而此能詳備明必以供占筮之用臣元彰竊為公賀之因又謹弁其首如此

此段後  
三書後



白キモアノキモ所ニ所集メ遊バサレテ即棄テ又  
シケルト申ス、即セマ

①山簡醉等処 未勝樽前倒接羅

畫只欠山翁倒接羅 酒家ノ景色ハ殊ノ外結構テアルナレバ 誰道

山公醉猶能騎馬迴 山簡ノ様ニ接羅ヲ倒シ様ニ凡俗人カナイカケ道 傳聞

停杯問山簡何似習家池 山簡ハ大醉シタト誰カ云ヒ及カ此方ノ思フ 臨碎謝首強山公欲

車馬醉還向習池看 ヨイ極ゲテ習家池ニ三言ヒ 臨碎謝首強山公欲

倒鞭 醉テ来テ高強ニ詞ヲカケルニ鞭直モ倒ニ持ケサナ 參差笑殺郢中見

騎馬別是風流賢主人 山簡ハ十ハニ醉テ又馬ニ騎テ帰ルカ 春風曾

醉酒懷山公 醉タニ付テ昔シノ山簡ドク 山公能醉後

醉習家池 春ニウカレテ酒家池テ 月上習家池 習家池ニ月カセテ別段ニ

笑問吳興登峴首何如山簡習池回 笑ヒテガヲ尋ルニ此度只無ク

山翁一醉白鞵 白鞵ハ襄陽ノ

倒著接羅從容笑 頭中ツ倒ニカブリテニコクシ 山公去

已久醉殺襄陽兒 山公北ナレテ来久モイコト今ハ空ク 芙蓉秋

老習家池 今ハ秋ノ 花醉習家池 花ハ秋ノ

習池未覺風流盡 習池ガカリハ昔コヨリ今ニ凡俗人ノ介 須成一醉習池

空醉山翁酒途憐似舊強 此方ハ山公ノ様

狂遺白接羅 一向世ニカマハ又狂

池要山簡馬 此方イ庭ノ泉水ヲ見レバ醉ハシハ居テ又 日有

習池ハ行テ一杯飲テヨイキケン 只山公ノ様ナ方ノ供ヲシテ行テ大醉ニ醉マカ

高強ニハハテモ居ラフカト昔シノ人ヲ引出シテ来セリ 高強ニハハテモ居ラフカト昔シノ人ヲ引出シテ来セリ

中ニ傳ハラ居ル 中ニ傳ハラ居ル

習家池

毎日習家ニ行テ

似向習家池

習家池ニ行ク

愛酒晋山簡

山簡

花開應醉習家池

花カ咲テヨイ時候ニナラバ大方

習家ニ行テ酔ヒルヲテガアラフ

葛強今已老及

馬莫教遲

供ハレル葛強モ今ハ老年ニ及ビタルヲセバアマリ

春到習家池

山簡不來遊

山簡モ今ハ居ラズ

白銅鞮

還向春風著

ヤハリ春ニウケテ酔テハ

向非張茂

龍劍

龍劍ノ

劍留南斗近

ヨキ人ハ辰巳ノ方斗牛

劍影開龍鱗

先孰辨斗牛光

張華ノ眼カテナケレバ中ニ龍劍ノ

劍影開龍鱗

斗間紫氣龍埋獄

斗牛ノ間ニメツラシイ氣ガ立バカ

不掘豐城劍

劍氣徑望斗牛

氣ヲテガタルハ

不掘豐城劍

輝

豐城ノ獄屋ヲ掘ルモナク劍ハ

惜是真龍懶拋

擲夜來街斗

氣何高

真ノ後ニ立ベキキ物ヲ捨テ置クハイカモ惜イ物デアリ

劍不留

紫氣

龍泉太阿ノ劍カニツバハレ

斗間自合豐城

氣

斗牛ノ間ニ龍劍ノニツガヨリ合テ

虛傳龍劍有雌雄

劍氣夜看南斗合

ニ振ノ劍ガ合テ合テ

劍氣夜看南斗合

崢嶸各有如龍劍

崢嶸トモイワレモ並テ多人ニテ

蒼茫劍浦雙龍氣

龍劍ノ氣ノ立ワハテニ無

紫氣何勞映斗文

紫氣ノ斗文ニウツラフ

紫氣猶寒北

斗傍

今以テ紫氣ハ北斗カニ立テ

塵埃氣色存龍劍

斗間龍氣

斗牛ノ間ノ劍氣モ今ハ

龍劍ノ氣ハ

世劍忽看騰越水

豐城ノ劍ガ越水アタリテ

肯教龍劍吐風雲



ツラスル様ナヤキバツ セルコニタトハ元氣 豊城縦許干將在斗氣蒼茫不

可尋 タトヒ豊城ニヨキカカハル 吳天劍奪真人氣 吳天

干將莫邪同標ノ氣エハ老子ノ紫 悦如雙劍合延津

吟 張華 知君近南斗時倚鑊鉞看 龍劍

陰雨龍文動 龍文 滄江問靈劍

離合少人知 川アタリ 儂怪雙龍馬

紫氣 何分紫氣ノ高クハ 飛龍忽報干將合

孤臣自有豊城劍遙夜鬼家白斗邊 見ツギテノ

三注述スル ハナレモノテアルガ元来豊城出ノ宝劍ヲ持テ居ルニ長夜ニ別テ

氣 半天ニ延津ノ龍劍ノ 但使斗間双氣五不將雷雨辨雌雄 王ハサカシム

遠方ニシテ 天畔還看劍氣雄 天ノアサタニ龍劍ノ氣ノ勢ヒ

劍往不必問雌雄 但宝劍ヲ持テユリガヨクハ 共說豊城龍劍氣

到處還向獄中看 豊城ノ龍劍ノ氣ノ勢ヒ 画裏龍泉比斗又

二龍飛 格別ノ人カ死シタル程ニ干將カ共邪ト一ツ成龍ト

莫向延平津口度恐驚風雨

林空龍泉照雪霜 龍泉ハ干將ノ一名〇ソノモトノ宝劍格別ニ

テ雪ヤ霜トテリアフテ見テモツト

ツラスル様ナヤキバツ

テミル〇人ノスゴイオ氣ヲアラハサ

可尋 タトヒ豊城ニヨキカカハル

干將莫邪同標ノ氣エハ老子ノ紫

吟 張華 知君近南斗時倚鑊鉞看

陰雨龍文動 龍文 滄江問靈劍

離合少人知 川アタリ 儂怪雙龍馬

紫氣 何分紫氣ノ高クハ 飛龍忽報干將合

七何一閉豐城後紫氣空干北斗長

此二前句ト同シ看ミテ後〇七二相ノ  
宝劍モ人ニ用ラズ松ナク豊城ニウ

博物張華不易逢

張華博物ノ  
人ニ斗牛ノ

當時未得豐城劍

己モ前句ト同一看ミテ後〇三  
ラ平均シテ頃ハメク豊

張華劍倚斗牛看

張華見斗牛ノ向メ氣カニ  
三ノ四寶劍ノアルヲミル

秋色薊城雙劍合

薊城二兩人ノスグシ人ガ  
ヨリアラキ

紫氣猶冲北斗寒

劍ヨリ三ツ紫  
氣今以漸

定識豐劍歸君後遙望長安北斗邊

宝劍ヲ御手入  
テカラハ上ノ脚

寶劍值千金上有飛龍字

千枚ノ折紙付ク程ノ  
宝劍ヲ飛龍ト云フ

可惜龍泉劍流落在薊城

龍泉ノ名劍ダラツモシテ  
豊城ニアルト云ハカモ惜イ

馮將

雙劍問張華

馮將中テ二振ノ劍ノ目キヲ  
張華トノ問ヲモラフ

豐城劍氣斗間看

豊城ノ劍  
氣斗牛ノ

腰間兩龍劍解贈氣何雄

コトニ佩テ辰ニ振ノ宝劍ヲズット取テ人ニ  
ヤル何ララ氣零ナクヤ

匣中龍氣已縱橫

持前ノ才氣モヤ儀  
横ニミコシ

斗間雙劍指薊城

斗牛ノ間  
三ツ劍氣

古劍匣藏歲已深每從風雨作龍吟

古刀ノ儀樓  
物ヲハコ入リシ

池州

多ク後家  
所存テ

池中虛月白苔庭衰艸偏

池ニハ月影ヤ白クウツリ庭ニ  
朝吹衰草ハ枯テ白クミル

夢得池塘春草使我長價登樓詩

ソノモトノ即チ夢中ニ池後生春草ノ句ヲ  
得ル故ニラ此方ノ登樓詩ハ後世也

昨夢見惠連朝吟謝公詩

夜ノ夢ニ惠連ソフモトノ詩ヲ見テ朝  
ハト其ノ湘雲匯ノ詩ヲウケテ列

應共題春

謝家春艸滿池塘

謝家ハ別殿テテ毛草ノ芽出シガ  
池ノアタリニハイニ見ユ

謝公池塘上春艸

謝公ハ  
生白

謝公庭先春草

謝公ノ庭先モ春ニテリタレハ早草カ  
池ノ邊ニヨウ青ミト芽ヲ出シタ

問我中霄意謝家春艸生

宵鏡宵  
設〇此方

謝公何處春

謝公ノ何處ニテ居ラレルトヤ草モ芽ヲ出  
ミタル時節ニハ

得ん夢 寂、秋堂下空吟小謝詩  
秋サキ位辰ノサセニキニリテハ別シテ  
イトコノヲ思ヒテ謝堂運ノ地味ノ清刃

那因見和地塘句始羨中謝才  
何モ地味ノ句ヲ見タカラト云テ  
トコノ凡流ノオラ羨ムゾハ無イ元

柳絮池塘香入夢  
謝堂運ノ柳絮ノ見テ云ヒ謝堂運ノ地  
塘ノ句ト云ヒ謝堂ノ人ニハ格別ノ人ニテ夢

池邊芳草迎春夢  
モヤ池ノアタリニ草ガハ一テ夢ヲモ  
見サセル様ナ時辰ニ成タ

春草句將允惠連誰  
夢中池塘生春ルノ句ヲ得ルハ相争ガ事  
連ナレバコソデア

題鳳 今朝忽在秋山生駕  
狂ハ狂字ノ誤○今朝●存シガケナク  
御出下サレタ

到門不敢題鳳鳥  
鳳鳥ノ凡字ノ誤○門口ニ行御不在ノコソ承知シテ  
モ凡鳥ノ字ヲ書付ルノモイタサヌ

命駕來相招  
供ヲ云付ケテ自身來テ  
招待サレル

粉壁已沈題鳳字  
漆喰ノ久ニ鳳字ヲ  
ホリ付テカハ

客至題鳳鳥  
鳳鳥ニ又凡鳥ノ誤ナル○  
客來テモ空ニク鳳鳥ル

命駕何辭  
命駕何辭

千里灘 豈如題鳳似  
内心ニハワルクニヒテハハニヨク云  
ヒ凡様ニモキバシク鳳ノ字ヲモ書

鳳字慚愁叔  
鳳字モ字ニ愁原トニアリ  
テハ甚カスル

忽報秋廣  
忽報秋廣

應門先報呂安車  
取次ニ出テ呂安トノ所出ト云ヒ  
取アヘスフレコム

明月在天  
明月在天

難命駕  
月ハヨケレ氏御尋子申ス  
リケルノ御出云モ

千里尋人空返車  
ハルハ在人ヲタツ子來テ  
不在ニテムサレカハル

命駕  
命駕

何過鳳鳥門  
此モ鳳ハ凡ノ誤ナル○ツツラヌ人ノ  
所ニサレクモ子ヲテハユカヌ

鳳池  
後中書者ノイラサセテ云中書者  
トハ中書ノ役所ニ候

共沐恩波鳳池上  
御互ニ中書者ニ入シテ  
莫大ノ恩波ヲ受ケル

獨有鳳凰池上客  
獨有鳳凰池上客

鳳池  
後中書者ノイラサセテ云中書者  
トハ中書ノ役所ニ候

鳳池  
後中書者ノイラサセテ云中書者  
トハ中書ノ役所ニ候

鳳池  
後中書者ノイラサセテ云中書者  
トハ中書ノ役所ニ候

鳳凰池ノ役所ヲツタヘシ

池上于今有鳳毛

中書者ニ今モ格別ノスル者ガ居ラレルノ鳳毛ハ謝靈運ノ故事ニテ父ニテ交

鳳凰憶故池

格別ノ人デ以前中書ヲツトメ

君登鳳池去

ソコモト此度中書ニシテ身サレテ結構ナ

鳳池同夜直

以前中書者デ泊リノ

鳳凰池上老

中書者ヲツトメラシ

鳳池深

中書ノ役所アタリモ春サキ

春雲載筆鳳池頭

中書ノ勤ニテタハス詔勅

不見

中書ヲツトメラレタスグレ人モ

首令鳳池春婉婉

首令トノモ春サキハ詔勅

池上春雲裡

中書者アタリ

不識仙雲在鳳池

中書ニテサツニ此ナ詔勅

池上雲控鳳鳥飛

中書者ノ標チイカモ

鳳池水暖春雲度

池上雲控鳳鳥飛

中書ハ格別執ヒキ

潘岳

花發潘園好御輿

花カサイテ時假モヨク成ス

坐使安仁變二毛

潘岳トノニモラカ

少年陳乞為潘輿

行樂想潘輿

故御デハ兄ノ象ガ御儀

潘岳同標ハヤモラガ

白頭

潘岳ノ標ニ閑居ニテ奉公モセヌ

鏡有潘郎髣髴

鏡ヲ取テ見レド

白髮多

潘岳ノ標ニ早クシテ

興逸潘仁賦

潘岳ノ秋興賦ヲ見

度看花發遮

莫潘郎髣髴已侵

河陽

寂寞潘傷往賦

潘岳ガ母ヲ板輿ニシテ

當年作賦工

潘岳ハソノムカシ

閑居賦就二毛多

シラカハ出来テ賦

如昔日潘輿過

潘岳ノ庭

潘輿

潘岳

潘岳ノ庭

今日問春還

御儀様モ今日花見ニ  
出テコラレタ

秋色蕭、擁二毛

一クイ秋ハ物サシニ此意ニ  
カアトニ成タテ尚物サシイ

隣笛

死タル友ヲ思フ  
フコニ用

一聲隣笛舊山川

隣家テ吹ク笛ヲ聞ケル昔  
ノモヤウヲ思ヒ出セル

故人何

處憶山陽

フルイ友ヲ今ドコニ居ル  
ハ辰ラレヌニ昔ニ同ニ遊ビ  
タルヲ思ヒ出

昔有山陽感誰教玉笛

吹

サモナニキリニ先立タル友  
ヲ思ヒ出

隣笛忽聞吹折柳舊遊淪落

陪銷魂

隣家テ折柳ノ曲ヲ吹出シ  
テハ別離ノ曲

昨夜山陽玉笛聲

昨夜隣家玉笛吹友ヲ

今日隣家吹玉笛不堪吹入思悲

隣家聞暮笛

漢ノ樂府曲名ニテ隣家テ笛ヲ吹ク  
ハ高ケル友ヲノコラ思ヒ出

隣家聞暮笛

縱有隣人解吹笛

山陽舊似更誰遇

友ヲ今更ニ誰ニ  
人カ笛ヲ

滿目山陽笛裏人

友ヲ今更ニ誰ニ  
人カ笛ヲ

歎逝何堪隣笛

隣家品笛殘

隣家品笛ヲ吹テハ  
人カ笛ヲ

聲

友ヲ今更ニ誰ニ  
人カ笛ヲ

乘輿

昨夜吳中雪子猷佳興發

ニフハ雪ガ降タニ付テハ子猷  
モオモシロクテタマラヌ

此行殊尋戴自可緩歸橈

今日來タハワサク戴  
有通ヲ尋テ來タノニ  
皓如

山陰雪

四方真白雪  
山陰ノ

棹歌剡中舡

此雪ヲ見ナガ  
舟ニ乗テ友人  
共

憶剡溪舡

イッレモ昔  
ノ子猷ノ

有客同於雪夜舟

同道ノ人ガ有テ雪  
ノ夜

不用山陰棹東隣是戴家

ハルグ舟ニ乗テ出カ  
ルニ及

去住真成

訪戴船

今日ノ往來ノ極  
手モナク

無復王猷興溲其訪戴舟

其後  
出

不林示此夜飛揚甚清興

冷然到剡溪

揚  
字

迴舟中夜興雷聞

中舟  
ノ

共愁孤棹回殘雪

早連雨及  
ラカヒ  
記スル

今更ニ誰ニ  
人カ笛ヲ

友ヲ今更ニ誰ニ  
人カ笛ヲ

友ヲ今更ニ誰ニ  
人カ笛ヲ

陰棹面白クナツテ来テ夜中カラ 豈是剡溪偏盡興剡溪ガリヲ限リテ興ヲ尽ス

應絕高人乘興船風伝人々興ニ乗リテ舟ニ 咫尺山陰飛早雪可待一上

剡溪船今山陰月前ニテ早ニト雪ガフリ出ダガ 東行萬里堪乘興須向山

陰上小船此度ハく東ノ方遠方ニ行リニ付テハ面白クモサズガラフ 山陰夜

雲興難乘山陰ノ雪モ 兼憶雪下船又船中雪ニ難儀

允尋戴安道戴安道ヲ尋ル 夜雪難乘剡曲舟夜中ノ雪ニ 月明

萬里天如雪何得扁舟訪戴還今夜ハ月カヨクテ世間ノ様子ガ雪ニモ降テ

興來風雨擬山陰己ニ書ツテハ野航秋水堪乘興ノ句此ト別ノ句ニ候

野航秋水堪乘興秋サキテ水カ沢山云田船デモ乘 到夜應逢雪門

多乘興到着ノ節ハ定メテ雪ノ時節ニ成テアラフ雪ニ降 興尽剡溪舟

何必山陰道千山夜雪高何モ山陰也ニ限リテ雪ノ

後千門月色開故人遙憶子猷回鏡他已盡山陰興半夜還

須載酒來此程ノ雪ガハレテヨイ月アランガ能クサキ子猷トノハ面白クナクテ回ラセタラ思ハス

且向山陰雪後看面白ク興テリタラハ 賴有王猷興サキハ王猷ノ 輕舟冷月

尋溪轉疑是山陰雪後來今トシタル舟ヲ月ノヨイニサセテ溪ヲ乘リテ

乘興嫌太遲焚却子猷舟面白クモセテ舟ニ乘テ出テハ

潯陽允剡水愧且子猷船此得陽ハ剡溪トシテカフケレトモカ

訪戴昔未偶戴安道ヲヨリテ子猷トシテハ

遠公虎溪間月引相遇 虎溪間月引相遇間ハ間字ノ誤

結茅栽樹近東林ワヤラコレスルノ前ニ樹木ヲ 偏向東林遇遠師

結茅栽樹近東林種ヲリテ佛寺ノ近所ニ住フ

結茅栽樹近東林種ヲリテ佛寺ノ近所ニ住フ

結茅栽樹近東林種ヲリテ佛寺ノ近所ニ住フ

御寺一行テ御住持ノ遠公此日應相笑也學蓮華社裏人己ハ酒ヲ止ルナリ詩

遠公アノ男モヤリ蓮花社裏ノ人石林精舍武溪東夜叩禪虎謁遠

公別人モ未ヌト推料シテ香ヲ焚テ似得廬山路真隨惠遠遊コトハ屋ヲ得○堂

上詣遠公廬孤峯懸一徑所住持ノ方丈ニ入行フ處

遠公道跡廬山岑モト裏庭ノ住ニ心入唯餘玄度得相

尋去度ハ詩詞字ニモ遠公ハ能書人○許云白蓮社裏如相問白蓮社人言

請近東林寺窮年事遠公ドウノ御寺也所ニ住居シテ一生大還聞擬結

東林社承レバ遠公ノ時ノ真似ラシテ清也家日暝辭遠公虎溪相送

出御住持ノイハレトゴヒラシテ居テクシハ嘗讀遠公傳アル時遠公ノ本付東林

精舍近御寺ガ原得遠公知姓字手前ハ御住持標ニ三笑失難愁

蓮花漏遠公ハ手廻ニ蓮花ナリ飛錫返東林飛錫誌公ノ故事○御上人

因從遠公社登眺思悠哉白蓮社ノ仲間ニ今ハ今日御寺ニ遊テ風景

多謝東林月殷勤過虎溪東林寺ノ上ニ飛錫さん月ノ光リテヨウク虎溪

遠公青蓮宇上人ノ白社重安禪白

白社可容陶令酒イカニ白蓮社トモ陶陶明ノ酒ヲ不為遠師招白社

詩字解環前編了

以上六條十一月不出四十回反

上處公ハ無理ニ白蓮社ノ仲間ニ引入レヤウ

ト云決工ニ付テ行リノデハ無イ

社ノ仲間デハ坐禪ヲ

大切ニシテアル

標ナ物デモコトニアリカタイ

下モ志テリ通ラセタ月

テ下サタ

テ下サタ

テ下サタ

テ下サタ

テ下サタ

續詩字解環

娥英 日本三ノ竹生場 舟天江嶋舟下 二借用 雨過湘竹渡痕斑 湘水也ノ竹ヲ凡ガ吹テ色ニシヨカスル 風

聲入竹学湘琴 湘水也ノ竹ヲ凡ガ吹テ色ニシヨカスル 渡痕羊散湘江雨 湘水也ノ竹ヲ凡ガ吹テ色ニシヨカスル 不知何處

牙湘君 トコヲ見当ニシテ湘妃ヲ 斑竹怨湘君 斑竹怨湘君 洲前落

日聞湘琴 湘水ノ中洲アリハ物サミンクテ殊ニ万 莫向湘君聽鼓琴 莫向湘君聽鼓琴 黃陵

月冷不勝愁 湘妃ノ宮アリテ湘妃 水落風 水落風 斑竹冷 斑竹冷

低湘女怨 雲夢夕尺ハイロモ廣イヌデビヨウバツト 因思湘妃歎 コレニ因テ湘妃ノ心中モ憶ヒ 江頭月落西

風起轉覺相靈琴調悲 湘妃ノ宮アリテ湘妃 斑竹怨湘君 斑竹怨湘君 洲前落

色乘湘怨 竹様ヲ見レバ湘妃ノ怨モ 傳道湘靈時鼓琴 風聞ニ承玉レハ折

班竹行秋雨 湘妃ガ涙ア深タトシテ 班竹雨痕空濺淚 班竹ニ雨ノカレラレバ人ユソニチ 湘妃

傳説 賢人ヲ傳説ニヒラユ 月明無恙傳巖野 傳説ノ野ノ月ヤハリ 自

說星入夢後 傳説ガカワキ身ハテアリナカラ天子ノ夢ヲニ見テコノカタ 傳説ノカ

夢後傳出月色寒 山ノ即巖字 傳説ガ京都

帝王夢 傳説ノ曉方ノケレキヲミシレテ高宗ノ 天晴殘夢入明星 天晴殘夢入明星

難覺傳巖夢 古来今ニミシレテ高宗ノ 夢飛一夜傳出下 傳説ノ

說星夜入王夢 賢人ノコトニ定メテ毎夜天子ノ 帝夢再通 帝夢再通

天晴殘夢入明星 天晴殘夢入明星

難覺傳巖夢 古来今ニミシレテ高宗ノ

說星夜入王夢 賢人ノコトニ定メテ毎夜天子ノ

帝夢再通 帝夢再通

天晴殘夢入明星 天晴殘夢入明星

難覺傳巖夢 古来今ニミシレテ高宗ノ

說星夜入王夢 賢人ノコトニ定メテ毎夜天子ノ

帝夢再通 帝夢再通



説命篇

昔し傳説天子ノ御夢ニ入テ宰相ニ命ジテ流命篇ヲキタカ此度又コレ位  
清見出シテ所啓事ヲ申スケ有レ況命篇再度テキルテサテラノ何後仔細

傳巖最夢覺曉日星落

傳巖四テフト同ヲサシ見レハヤ  
夜ガアテテ日星モヘナク成ク

誰識君王五更

夢夕乍作高野曉天回

天子様ノ御夢ニ賢人ヲ所覺アツテ所見出シ  
ニ成クフト誰モ思モヨラナク

更將滋味助

伊尹

傳説向レ

月明猶照有莘野

有莘ノ在レ今ニ  
月カヨク

更將滋味助

仙舟

二イ料理ヲ仙家ノ食ニトリアセ  
善造ヲ以テ政事ヲトリ扱フコト吟フ

耕罷有莘殘月照

在テ昼  
耕作ノ夜

風烈有莘好可耕

時節ガ凡レ在  
引込テ耕作カヨク

有莘野外雨初

滋味只餘致鼎位

オガアルユヘ三  
テアラシクテカ

兩晴月出樂

耕年

兩アグリノ月ノヨイニ  
模様ア見テヨクニテ

王道不妨負鼎人

料理カ  
モ徳アル

風雲偶合有莘野

在テ  
細無クテ

有莘無

有莘無

在テ  
風雲ハ君臣ノ  
隆

有莘無

文月明疎

賢人ガ出テ仕舞テ  
在レ月ニモサシ

楊樂竟年賦曲間

イナカデ世  
ナカハ聖人

有莘一夜風雲會

有莘ヨリフト  
臣會体

有莘兩霽州初

芳

カルクノ者ヲ用テ  
物ヲ老ハス

有莘兩霽州初

非熊

コレモ大抵傳説伊尹等ト  
同ク用修

罷獵有非熊

シカリセス  
人ヲ得ラレタ

西去磻溪

猶萬里可純垂白待文王

磻溪トハ大  
タカハ

周宮

月夜非熊夢偏入磻溪垂釣時

天子モ賢人ヲ得テ  
思ハサルニ夜ハ非熊

坐茅師尚父

イナカ  
辰夕チサガ即チ太師トナリ尚父トシテ

西伯由來難遇龍

何故子何  
イナカ

渭水非熊ト

一日允然入夢新

アルフト賢人  
イナカ

偶應非熊兆

イナカ

為帝者師

フトウラカニ北無事無事方出

自是允能堪入夢

此様上噴

進イヤテモ御夢ヲモ

允能我輩事未遇渭濱北

此方トモい皆道ヲ行フトモ腹

今ハテウカクニモ去トモ

一自周文得能北

文王太ウカクテ御手ニ龍

西伯田

龍影ノ如ク人ハ皆

帝師偶會渭陽ト

亭者ノ師尤人ニ

車載倘逢渭川夫

凡間テニカニトシラハ

如向後

獨釣時

環後也テ物サニシ

高堂吾識允能老

上座ニ居玉フハ太

望火應同釣渭年

上ニテモ兼ニ御手ニ

一白ニカニ

鳥知磻溪情

磻溪釣フシテ辰心

一白ニカニ

放牛

大車ノフニ用ユ又下

桃林春滿放牛去

桃ヤシ春カサテ

桃林日暮引牛下

夕暮ニ成ルハ牛ヲ引

昔時牧馬

花ガ暖モ先カニ

華山下

昔シ武王ガ放シモテ

周天雨度桃林茂

御世太平テ御恩

馬肥草色入周年

草モヨフシケリ馬モ

牽牛深入桃

林去

飲牛水色映桃林

牛ヲ引ワレテ川ニ行

桃林花色

バ折フシ暖モ先カニ

春來吟馬望華山

春サキ馬ニ乗テ出テ

桃林花色

バ折フシ暖モ先カニ

濕春雨

桃林ノ花ニ此程ノ春

山高牧馬嘶春風

華山

必逢周武放牛日

太平ノ御時テ

成周牧馬春

キワトナリ

一歸華山無征戰

武王御時テ馬ニ

以上五條

巳上二百上

野カヒノ馬モ元氣ヨリ

武王御時テ馬ニ

以上五條

巳上二百上

左國賦詞序

十月十日紫山新長氏



者咀嚼之矣

左傳國法ノ文章早宣  
トハ實リスシテ文ノカキル名簡古俚ノ鄙俚典談ノ典謀訓誥書信ニテ文ヲ  
今ハ實或下ニ云ル口上股ノ肉中ノアブラミノムキキハ意味深ク  
ルニハ咀嚼ト云フ其股解ヲトリ用ルニメトフ○左傳ノ文章ノヤ  
其ナルハモエアリテ史ニ流スニ尚古ミテイヤシカラズ典漢訓誥ノ  
人ニ即互ニ立シテ何タル弊微簡推ノヤ此ニテハ文辭ニ於テハ極  
文章名人ノ班固司馬遷タチガ好イテトリ用タリテハ凌惟哲ガ此  
此書坤出書後世ノ條持家ニトリ用ヒセヤト云ハト申イニ序也云

夫謂撫當古志論

高誦詠之久心照意近故之置諸山林不能  
不古學之昇諸皇閣不能令也夫如是而後可以言又詩可以言

古庶幾足以起衰

敬爾語云詠園詠者采珠而捐蚌登荆山者  
拾玉而棄石余校茲編亦云

左國ヲ卷ヒテ又云ラ吟味ニテ又ラ書ク子ハヨキ文出東ルヲ云○  
志論ニ志尚談海ヲ云誦詠ハ其内ニ入ヒタルヲ云心照意近ニ書  
勝手腹中ノクミタテラ云左國ヲ選置ニテ吾腹ニテ見ツモリ但三心山林ニシテ其意尚ト云ラ凌惟哲ノ序ニ  
ア山林草野ノ文庶廊臺閣ノ文ヲ云山林草野ノ文字又云置トシテ其意尚ト云ラ凌惟哲ノ序ニ  
以來ノ衰敬ヲ引起シトリカスヲ云語云ニハ何善ニ出候ヤ未記石中候園詠ハ水ノ丸クモカチテ流レ  
候間シ云淮南子ニ水ノ因折スル処ニ珠アル由見ニ采珠而捐蚌ト珠ハ蚌中ヨリ出ル者ヲ蚌ヲテ中ノヨキ

珠ヲトルヲ云荆山ハ玉ノ出ル山玉石ニツマリ辰者ノ石ヲステハ中ノ玉ヲ拾ヒルヲ云イツレモ善言  
ヲヨリワケテ結構ヲ所ヲトリ用ルヲ申候○又云ラヒヒ心照意近ニ書  
カヨシ  
テキルソレデモ又云ラ吟味ニテ又ラ書ク子ハヨキ文出東ルヲ云○  
云古語モツルカ此左國股内モノノ通リト此方ニ存スルト云也申候

西播赤松國寫得善本校之其有挂漏者則隨

禪補之成尚序  
余、既老矣又善忘殊覺用切遂題以言云

此段ハ此度新補ノニキルハ  
ハ入レタニテ成就シルニ付序ヲカケト云タルニ余ハ善忘手ニ及ビ物ヲスルカ上ニテモ此書カ約ヒテ入用  
ナレバ古ノ言ヲ書付テ序トシタルトシ

左國股内序

常聞先輩論文有二有山林草野之文有廟廊臺閣之文  
持稿惟  
持者山林中林之文也温潤豐盈得雄偉妍而者廟廊臺閣之文也

山林草野ノ文ハ温潤豐盈得雄偉妍而者廟廊臺閣ノ文ハ持稿惟持者山林中林之文也

文章ニ二等アリヲ語候 ○先輩論文ハ 宋ノ皇処厚ノ青相雜記ト云書ん詞ニ候 ○先  
輩ノ文章ノ滿ニ文章ニ二等アリ山林草野ノ又トテ隱遁者ナドノ趣ナルヤセカレタ文モ有  
廟堂閣下ノ御玉座殿中向ナド事立立ニ 蘇東坡ノ近ナル心ニ文モ有ル 枯稿憔悴ナル書キ方カ  
山林草野ノ又温潤豊盈相俾輝麗ナルガ 庶廊臺閣ノ文デアリト先輩ガ云ク

夫言成文悉自肺腑願岐而二之者何公居使然也山林之士

困厄其志屈故其言雖放而若拘庶廟之士遭時操柄其志伸

故其言奮揚而豪宕此其大較然也 ○言葉ハイソモ人間ノ肺腑ナリト云テ文

ニナル物ナルモ右通リ二等ノワカチ有ルカハ何カハ放テバ身ノ置所テ氣もモカレエテ山林隱遁者信  
實困厄シテ居ルニ氣もカ屈シカミテ言葉モモトヒ氣促ラズトモ今一シメカラゲツケテテ成ル  
ヤワテアル 庶廊ニシテ居ルノ友人達ニ時ヲ得テハブリモヨリ政事ヲ吾心供ニスルニ出スルニ一氣も伸  
ビテドフハ遠慮トテモ無ク一ハ言葉モモ奮揚豪宕ニシテ氣味ヨクカアルノチアル此が大グイノ  
差別デアリト申ス

左國之文嗣續六經驅馳屈宋未暇遯其疇昔之遇迹其摘

之葩藻所謂庶廊臺閣者是已昔人乃謂左氏富而艷其

失也太言豈其然哉宣尼父論鄭國之為命迺以潤色終之似

無嫌於富艷為也至於以言繫易又自名曰文惟又斯美

斯愛傳而行於是乎遠富艷也烏乎距 ○六位ハ詩書禮樂易春

秋居宋ハ庶原宋玉ノ楚辭ノ又ヲ世邇其疇昔ヲ退トハ左丘明ノ人品隱遁ニ方キ其聖閣ノ  
人デアリシヤ其セニヤルヲ云昔人乃謂トハ韓退之ニ左氏之浮誇ト云テ人ヲ甲候此言ノ心ハ左氏  
ハウツクシクツヤヲ重モシクニ浮薄ニ人ニ誇ル風流ト申スルニ 論鄭國之為命ト論語ニ出ツ  
子曰為命裨諶章劄之西叔討論之行人子而修飾之東里子産潤色之此ハ鄭國ニテ命令ヲ出スニ  
ハ裨諶カ章劄ノ但シラシ西叔ガ難向シ子而ガ直シヲ上ラ子産カワヤヲ付ケテ任上ト云ク  
自名曰文ト云言傳外ニタル云距ハ距蛇ノ距ニクイ違ヒ在リ前ナル云 ○左國ノ文ハ六位ニ  
方キ其聖閣ノ庶原宋玉ノ標ナリ所モ自任ニカキタバ其人ノ身柄迄言聲ニハ 蘇東坡ノ文章  
ノ様樣ヲ見ルニハ彼庶廊臺閣ノ文ト云物デアリ昔シノ人カ左氏ノ文ハ富艷ニテ誇ニテカレト云タ  
ルハ尤テハ無ク其ハハハ無クテ人孔子鄭國ノ命ヲ云コシテ云フ浮薄シテ仕舞ニ潤色ノ  
ヲノモモタシハ文章ハイカモ富艷ニ書イラ大率ナクテアル既ニ孔子亦身易ハ書キ  
玉ラタルニハ文言ト云題ヲアレバソレシレハ 文テコソ美ニウツクシク美ナルニ天下甲モ後世モ  
ツトト行レル富艷ナレバト何モ違フ様ニ而白カラス云クハ無クト云云

余讀左國者其詞之腴也迺摘而録之彙編存熟好事者請梓

遂梓之 ○此書ヲコレハ板シタルヲ云 ○余左國ノ文ノムキヲ好イテ中ノ別ニテムキノ摘出

此類モテニテ書物トシテ 蘇東坡ノ考ガ板ニ仕度ト云ニ付テ板ニルナリ

噫良工不示人以朴字又者其言寥寥於筆楮間乎敢叙諸首  
 以覓同志 此書ノ蓋アルヲ云○良工不示人以朴ト後漢馬援傳ノ語接見況此心ハ細工人各人ナルハ朴ノ下地ゴシラハバ人ニモセ又ト云心細エラワ仕出サフト云ニ銘ノ工面ニテハ地ニシラハスルヲナレバソノ内幕ハ人ニハ見セラヌ又ト云後文章ヲ作ルニモ作リ上ル上ニ立派ニ何モカモ覺居テ書タル様見エシ成其下書ヲスルニ色ノ手段モアルヲナレバ人ニハ見セルモ相誇スルモ出ヌスト云意ニ喻ルニテ寂寂々能筆楮間ト云文章ヲカクニカヤウノ物ナレバナラヌ又ト云意○良工ハ人ニ朴ヲ見セヌト云人言云傳ルルヲナレバ筆低クアワカク同ニケ様ナ物無クテハ叶ハヌ又ト云意書ニテ同志ノ人ニ見テト云云ニ師主候

以上亦已上日云上

吐握

大抵宰相ト云ク  
 吐握不知下幾賢 一ノ内ニ浦ラキ髪ヲ握リテ人ニ進じルト何人デアラフ 握髮能  
 迎王佐臣 人ヲ大事ニ扱ヒルニ王佐ノオトモキ人モ来ル 千古共称吐握才 千載昔ヨリ宰相ノ人ヲ好ミルノハ一ヨリ稱列スル  
 愛人常握髮 人ヲスカレテ不断髮ヲ握リホカシ人ニ進じル 握髮幾年護國花 人ヲ大切ニ扱ヒテ即國ノ

吐握元知社稷臣

高位ヲ權ニカハズ人ヲ大切ニ扱ヒル 吐握能 一ノ内ニ浦ラキ髪ヲ握リテ人ニ進じルト何人デアラフ

千載難逢吐握人

其後周公旦也 吐握何因使國肥 賢人ヲ能ク

維令吐握迎客無那成王不用賢

賢人ヲ能ク 吐哺想賢臣 賢人ヲ能ク

元裁周公不驕人

周公旦ヨリ脚身柄ニテ下ニシテ 未聞吐握驕人 吐握ヲナルガ

誰料退朝勞吐握

却用多キ脚身柄ニテ脚退出ヨリ直 始見周公能驕賢 即賢人ノワケ

采薇

隱遁スルニ用 其誰更唱采薇歌 今又誰ガ采薇ノ歌 采薇歌罷

以

①

復迷入

采薇ヲウタヒテ引コトモ  
又一ガイニモユカヌ

好入南山賦采薇

南山ニ引込テ采薇  
デモウタフカヨ 長

歌懷采薇

采薇ヲウタフテ昔ノ采薇  
ノ人ト思ヒ出サレル

一時千載首陽山

伯夷叔齊ノ首陽ニ隱ルモ  
波モ時ヲランニ千載ノ今也

首陽人去不知吾

伯夷叔齊ノ死ニ任ラテ  
此方ヲ知テケル者ハ無ク

千古首陽秣采薇

千載ノ今也  
伯夷叔齊ノ

好共夷齊賦采薇

伯夷叔齊ノ同一山ニ引込  
高ク

采薇必作首陽歌

必ク隱遁  
シヨウト也

已入西山思采薇

西山ニ引込テ昔ノ  
人ヲ思ヒ出サレル

百年天地采薇歌

一生采薇歌ニモウ  
タテ世ノ中ヲ送ラ

請君更寄采薇篇

ソノモト隱遁ニテ詩ガキキタ  
見セヨコシテ下サレヨ

采薇吾等事

作テアル  
隱遁ニ此方共ノ所

何時首陽下共雨弔夷齊

イワサニ首陽山ニ引込テ伯  
夷叔齊ノ跡ヲトラハフ

醉來寧忘採薇歌

醉テモ隱遁ノ  
心ヲラシヌ

何以西山去采薇

采薇ノ誤ノ伯夷叔齊ノ隱遁ノ  
仕カトハ務メテ

義和

棄予隱西山

義和ノ義和ノ義和ノ日カ西ニ隱ル  
ハ日ノ暮ルナリ

首陽傷伯夷

首陽ノ伯夷ノ  
心ハイタニモイフ

西山日有烟霞侶推乃手采薇終不還

風流友々カ有テ西山ノ引込テ  
隱遁ニテ出テ又 思ヒテ還シ 西

山廬有采薇人

京ノ西山ニ大ニ方采薇ノ  
隱者ガ居ルデアラフ

歌裁薇蕨對西山

薇蕨ノ類ヲ采  
ルテ歌ミテ

披裘衣

貧窮者ヲ云

誰知五月有皮裘

五月ノカウイニ皮裘ヲ着テ  
居ト誰モ思フラケシマイ

五月皮裘

違世情

五月ニ裘ヲ着テ居ルハサリト  
世ノ人情モ相違ニテ居ル

君家元有皮裘歎

ソノモトニハトカクハ  
ニ帝トシテ美アルヲイフ

皮裘五月憑君脱

五月マテ裘ヲ着テ居リシニ  
ソノモトノ脚カケテ百衣服トモ  
カケテ居ル

吾家長物有皮

裘

コノ方ノ裘ハニコトノ  
イワテウラテアル

贈君五月一皮裘

時節ナラフ物ガフ皮  
裘ヲ進物ニ致ス

擁皮裘

雨多クテ寒キニ  
クルマレテ居ル

擁裘故老能違世

身月ハ老リ人トシテ見  
カセ世間ニテ見テ居ル

林頭猶擁一皮裘

外ニ何モ無ラレバ皮裘一ツ  
ハ身ヲササスニ居ル

五月一裘殊不負

五月ニ裘ヲ  
着ルハ病

加上皮裘堪典酒

典トハ破物ニ入ル  
酒ガ有ニシテ破入ニテ酒ガナクハ

家貧

老年ニテ  
ヤリハ病

半破夏天裘

此方ノ夏ニ夏モ裘ヲ着テ居ル  
其裘ハ半破ニシテ

身老向誰歡破裘

ヲ見流テクル人モ興クナセシノ  
本表ガアブレテモクワテモラフ人切無イ

⑤ 結草

死後ノ恩ニ報スル  
フニ用ユ

結草欲酬國士恩

此方ラ國士取扱ニシテ下サレタリ  
カニモ赤イコトニ死テモ草ナリト後ニテ

即思ラカシ  
度ト思フ

千載有誰能結草

其後ハハ死後ニ恩ヲ  
報シテ採ナ人ノキカ又

還耻當年結草人

ソノ音シ草ヲ後ヒク人ニ對  
シテハ世赤向ノコデア

地下必知結草時

死テモ恩ヲカサツト  
了了前ガキツトカ

結草必為泉

下人

モヤ世世テ恩ヲ報スルコト  
ヘ死テキツト恩ヲ報セヨ

戰罷猶知結草時

合戦スミテ草ヲ結シ  
タルカ目ニ付テ死ス

誰結草

御上ノ御恩ハ一統誰有存テス  
誰ガ即恩ニ報スルコトガデア

黃泉結草心

死後ニ恩ヲ  
報スル心

報

草ヲ結フ位ノ御恩ガハシ  
デハコダク追付カヌ

結草何時報國恩

イツ草ヲ結ンデ成トモ  
即思ラカハスコトガデア

原野猶餘結

草心

セムテ戰場デ成トモ思  
フカハシ度思フ

草色萋萋朝結露

死テモ恩ヲ報セヨト云  
草ヲ結シゲリテ露ヲ結ンデア

結草何忘報主心

草ヲ結ニテ成トモ上ノ御恩ヲ報  
シ度思フ心忘ルコト無イ

⑥ 越吟

投テラ慕ラ  
フニ用ユ

吟為在寫哀

詩ヲ作リテ在寫同様ニ  
故コトシテ

徒倚聽

為越吟

人ノ故ヲラシタフ歌ヲキケト  
徒倚トシモヤラシ又

越吟也

在寫

越吟也在寫

越人吟

不思或ヤ再ウタラキヤ  
故コト人ノ聲也デア

在寫吟何切

在寫トウシテアノヤウニ直  
ナフコトシテ吟スルコト

成在寫病

在寫ハ世ニ行テ身ハシトモ  
ソレガハリ病ノ根本デア

徒倚聊為越客吟

立モヤラスコト  
コヒシヤニ越方ス

吟罷先憐莊与病

越吟ヲシテ病モトナラフコト  
フコト思フコト何ヨリ先キ  
笑止ト思フ心カ

臥病還

吾土死

聞越吟

故師ニ夜テカラノ不快ニ  
ラスルコトモ無イ

以上五條生イ

巴徒校

叩角

氣多ツ草  
処ニ用

南山欲曙牛歌

南山ノ稔採ハヤ夜アケ方ニ成ル  
牛南ヲ拍テウタフコトモヤム

名無人向

古ヨリ今トカク牛カヒト  
モ目ヨケヌモノデア

齊女唯甘白石歌

宣威ハ心ヤリニ南山白石ノ歌  
ヲウタフコトモ無イ

叩角時歌

牛ノ角ヲ拍テウタフコト  
ヤリテ有テ有テア

短褐牛歌

意沛然

飲牛偶唱南山曲

牛ノセムヤイテウタフコト  
南山白石ノ歌ヲウタフ

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長

飲牛秋夜長

飲牛ノ秋夜長



然鏡然然〇ワラマヤ牛セハサトヤイテ  
短褐長歌好属君 短褐ヲ着テ長歌ハ宣威ノ所作ハワラマヤノ様ナリ 更

聞甯子歌 今又甯子ノ歌 能成叩角人 甯威ノ様ナリ人物 無人聞叩角 牛ノ角ヲ

齊人白石飯牛多 齊ノ名者モワラマヤノ役 白石歌中猶飲牛 白石ノ歌中猶飲牛

白石應憐歌短褐 短褐ハ白石ノ歌ヲウタフ 白石燠其光 白石ノ燠其光

可憐甯子飲牛歌 甯威ノ飲牛ノ歌ハ 停車好聽甯生 甯威ノ生

不鞭甯威牛 吟味ノ上ナリ

飯牛曾說齊名士 牛ノセウヤイテ居

魯國不容三 魯國ノ不容三

三點 柳下易逢三點世 魯國不容三 魯國ノ不容三

展禽三點風 展禽ハ三點ノ風 都來三點 都來ハ三點

枉道猶三點 道ヲマケテ世ニアハセテサハ 三點 三點

三點去鄉道 三點ノ世界ナラハ 去國思三點 去國ノ思三點

微名不忝稱三點 微名ハ不忝稱三點 杜官三點心 杜官ハ三點心

名因三 名因ハ三

直道誰知三點 直道ハ誰知三點

今古只稱三點人 今古ハ只稱三點人

入國美次三點 入國ハ美次三點

巧官笑三點 巧官ハ笑三點

今古只稱三點人 今古ハ只稱三點人

超庭日長 超庭ハ日長

鯉庭逢日長 鯉庭ハ逢日長

老親只恐超庭少 老親ハ只恐超庭少

官暇超庭思更深 官暇ハ超庭思更深

學禮 學禮

⑤

三點 魯國ノモトナリ折下重ノ様ナリ 展禽三點風 展禽ハ三點ノ風 都來三點 都來ハ三點

柳下易逢三點世 柳下易逢三點世 魯國不容三 魯國ノ不容三

枉道猶三點 道ヲマケテ世ニアハセテサハ 三點 三點

三點去鄉道 三點ノ世界ナラハ 去國思三點 去國ノ思三點

微名不忝稱三點 微名ハ不忝稱三點 杜官三點心 杜官ハ三點心

名因三 名因ハ三

直道誰知三點 直道ハ誰知三點

今古只稱三點人 今古ハ只稱三點人

入國美次三點 入國ハ美次三點

巧官笑三點 巧官ハ笑三點

今古只稱三點人 今古ハ只稱三點人

超庭日長 超庭ハ日長

鯉庭逢日長 鯉庭ハ逢日長

老親只恐超庭少 老親ハ只恐超庭少

官暇超庭思更深 官暇ハ超庭思更深

學禮 學禮

超庭 超庭

超庭日長 超庭ハ日長

鯉庭逢日長 鯉庭ハ逢日長

何時更趨庭 礼ノ修行ガデキテイツ親師ノモトニ行カレルデアラフ 東郡趨庭日 東郡ノ方親ノキケン 鯉庭設

壽筵 親ノ年々ノ酒 教子重詩禮 子ヲ教海ニ詩礼トヲオハスル 趨庭只世双親老 申前親トモ申年ヨシトシバ

好退鯉庭更聞禮 親ノキケンヨキテ聞フテ 趨庭知有日 親ノキケン聞フテ行リテ 故郷

鯉庭前生喜色 親ノキケンヨキテ聞フテ 只指趨庭日 只ハ親ノ儀ノキケン聞フテ 故郷

明日趨庭去 明日故師ノ儀リテ親師ノ 趨庭欲作斑衣舞 親ノキケンニ行テ能ク親ノ介抱ヲ

官情寧暇趨庭日 所奉公セワシクテ記ノ 老農耨不輟 路ヲ尋テモ農人ノ向アリキリ 只矢問津徒

問津 アクセクシテ世ノ中ヲ放シ 老農耨不輟 路ヲ尋テモ農人ノ向アリキリ 只矢問津徒

已知天下本滔 既釋天下ノヲキキ 避人復避世 人ヲモヨケルノ上 迷津無那

孔丘徒 孔子ノ師オハ渡シテ迷フテトモカラモ 板屋老知沮溺徒 コケテキキノ家ガ心定メテ 路

盡向誰更問津 路モ無ク成テ誰ニ向テ後シ 多是迷津客 多ク世中ニカリ 滔天下

君易 世中ノヲキキモ無ク成テ居ルヲ 避人往只迷津 用テリルヨイ人が無クアケテクニクニア

此裏必逢沮溺輩 此村内ニ大方長田築師ノ様ナ人が居ルヤラフ村 老農耨不輟 中ノ老農ノ凡ク有テ別段様ナテラン

避世何能不避吾 世ヲ避テ居ルソモトドウレテ 生涯只有一簞瓢 一簞一瓢ノカキガ

顏回 多クニ安シ 一瓢且一簞 一ツノ瓢又二ツ 生涯只有一簞瓢 一簞一瓢ノカキガ

顏氏一瓢殘不食 殘餘珠法ノ故何れ一簞一瓢ノ樂 百年天地一簞瓢 生涯ヲ送ル世中ニ只

顏家百載一簞樂 顏家ハ安カシク一簞一瓢ノ 家富何如陋巷人 身代ヲ手ニ執リ

陋巷別有子淵家 場所モ極イカノ場所ニテアレ 一簞瓢不知貧 一簞一瓢ノ

顏家不改一瓢樂 相カハラス貧窮ヲ 貧漢孔門第一人 貧窮ナル孔

孔門一自失顏子 孔子ノ師オハシテ 以上五世年百三上

仲由 先行ノ志深キ 百乘之何遠老親 大國ノ家老ノ様ナル身代ニ成 家

貧親先違心事

親幸コラシ家何ラスルモ  
ルヨリハ国元引込親ノ手元ニテマツキ物  
ナリトモ食ヒテ親ヲ介抱シクイ  
中ノ格禄ノ高下ヲ  
アリキスドコロデハ  
介抱シ向テ世ノ中ノ  
事ハ  
又

親老元非擇祿人

親ノ年寄ルカニ奉テ公ニテ  
親ヲ見ツカフトモ此方ニ  
北堂ノ奥テ女居ル所因テ母ノ異名也

北堂母老負生事

北堂ノ奥テ女居ル所因テ母ノ異名也

食蔡生涯住加郷

アサノ様ナルツモノ物デモ食テ衣親  
ヲ介抱シテ一生を所ヲハス奉公ミ出  
事ハ

生涯天地一蔡藿

一生蔡藿テモ食フテ親ヲ介抱ス  
外ニ世ノ中ニ望ミ絶テ無ク  
後車百乘仕

双親

大ソウナン身代ニテ高親  
ヨク孝養スル  
何負双親事南遊  
テ立身ヲ望ム心ハナイ

昔時遊楚仲由鬼

昔シ子路ガ楚國ニ行テ大身代ニ成ルカ  
裁カフヲ思ヒ出シテナケイト云心中カラモヤシ  
只今負重

去千里

今親ノ為ニ遠方マデ重荷  
去國自慚負宋人  
兼テ奉養ニ在仰モ  
尾ノ付テ

已看負重奉双親

重荷ヲ負フテモ親ヲ介抱ス

匹練

馬ノ一ニ用エ又野レテ  
川ヲ遠  
馬如一匹練明日過吳門  
馬ハササト一練  
棟上

曾追輕練過吳門

アル時吳門アリヲカケテ  
追テ過ルカ有テ

匹練吳門色

カレガ白馬ノ白色ヲコレハ吳門借借用ヒテ  
吳門ノ色吳門色誰行匹練

千秋匹練曳吳門

白馬ハ曳ルハ秋ニ  
老驢還驚匹練開

春水初生匹練開

春川モ春サキ水カサナリテ  
水

下吳閻匹練浮

吳門アリ水マサリテ  
匹練天栄吳觀出

西望吳門栄匹練

西吳門ノ方ヲ見ヤレバ  
吳門影練卷雲

下鞭如曳吳門練

下鞭アテレバ吳門ノ練ヲ曳クヤウニ  
駐馬還迷

吳觀峰高練影長

練影ガ長シ  
駐馬還迷

匹練深

馬ヲトメテ見テモ匹練ノ深  
欄干ニヨリカリテ見ワ

悉道吳門匹練飛

悉道  
且應餘巨練

吳門匹練繞毫末

吳門ノ匹練ノ気が幸  
サキニ見エル

吳門白馬雪外、千騎東方

匹練分

匹練ノ行ク多  
段ニ西ノ行ク毛馬ノ雪ノ掃ミ見コトニエテ

傾蓋

人ニ出會ヒテ久シク  
出シテルノ用ニ来リ

此日無端傾蓋

意不知何處負平生

今日存シカケ無ク即ち會申シケレバ  
平生ノ本意トケケト云モ秀アン

誰知傾蓋已如

故

ハジメテアフテモ心  
〇傾蓋如故ト云陽善傾蓋如故白頭如新ト云幸モテクク用テ候

傾蓋如故

意今日向君知

傾蓋如故ト古人ノ云々々意合ラ今日  
ソモト三節目ニ整ラシメテ會得シタ

傾蓋何必旧

何モフルヒナジミヤリ

尺素何如傾蓋時  
書状ヲ以テ申入ルニ面談ニ

偏喜百年傾

蓋同

長ラク中ヨク  
ヨロコビシイ

平生傾蓋望飛鳴

平生逢中テ成トモ  
目ニカリ度ト思フ

飛蓋為君傾

今日縁上シテスルノ  
ハナスモソコトエ

死生倚傾蓋

傾蓋知何日

伊和會申ス  
イヅテアラフ

相逢忽傾蓋

アツク心ヲ込シテユウク吐スカト

傾蓋新知多樂事

心ヲシリタル人ニ新タニ結言  
ニ成テ面白イガ況山

傾蓋相看即別送

原憲

極貧家  
極貧家ノ用

獲牖柔樞窮巷宅

〇モレキリタル衣敷ヲ着テアカサノ杖ヲウイテ居ル主人ハ誰ノ内テアラフ

五馬踟躕原憲宅

五馬ノ供テ来テシハ原憲ノ宅ニアリ  
ミカルシキエハ心迷フテ急ニ葉内モセヌ

鶉衣藜杖是

誰家

鶉衣ト云キレクニ成ルラムエヒアセタル衣苧子ニ子夏之衣懸結如鶉ト云リ出ツ

憲叩蓬戶

原憲ノ宅ヲタツ子  
タククヲモフ

應門先逐軒車也

應門ト取次ニ出ルヤノ  
身取ツキニ出テ三函ナ軒車

慮憲從來不病負

原憲ハ元來多病ナリ  
何トモ思ハス

能駕軒車尋獲

牖

立込ナ供立ミテイカシク  
辨シタ宅ヲウチル

緇衣不識鶉衣暖

曳杖殷勤先應門

子夏ノ富貴テ美服ヲシテ居テ原憲  
様ナ貧乏者ナリ誰儀テアラフト

五馬不容君子

君子ノ住居スル處ヤニハ馬路ガセマク  
テ中ニ五馬車トハハイルトシキヌ

華髮

取リワキニ出ル

藜杖且鹿門 バウクトシタ休テ松ニ 無恙山中環堵室 山中ノ小サ

昔シト聊カカハ 立山ナユハフトリタル馬ヲ車ニケテ 肥馬先容原憲宅 イカニ所ガウ望人ノ宅ニハ月身ガ子 華冠

因那厭清負 ホツレダラケノ冠ヲ着テ倚シニ 蓬戸不全原憲家 原憲家内ハ蓬戸 會

聞原憲病 原憲ハ不快ト云 旧無衛相車貴同原憲跡 衛相ノ子

史記仲尼 ト見ハ候 〇衛國ノ相ノ子責ノ乗ルヤウノ車ハ元来モタヌ 山宣勞子栗訊庶類ニ采元適 自

抱柔樞志 自身ハ原憲ヲ採ニ負願テ 孔門蓬華居短褐不掩胛

孔子ノ門人ノ原憲ハ蓬戸華門ノヤビズコシテ着物モ

抱柔樞志 孔子ノ門人ノ原憲ハ蓬戸華門ノヤビズコシテ着物モ

彈琴 下ヲ弟也骨ヲ折ラズニ 十歲鳴琴不下堂 久シク民ヲ治ルニ琴

高堂春興入琴曲 御奉行モ春サキハ時候ヨキニシ 村歌殷勤

彈琴 百姓共モ上ヲ有難ク思フテ祝歌スデアラフモ御奉行ノ 堂下已彈宓子

琴 堂下ノ人ヤ宓子ノ様ニ 山水移来子賤琴 御奉行ノ琴古クヤリ高山

彈琴已假不齊手 宓子賤ノ様ノ人ニ 單父春光動曲中 單父ノヤウス

單父歌 勤羊恨スミテ 西山白雪入琴聲 西山ニ雪カフリ積テ居ルニハツレ目ヤカラト

為政風流不下堂 政事ヲアウカフニモ琴ナトヒカシ 中心猶記 台山濤 中心疑方ハ忠ノ誤ノ志心テサハ

子胥 忠臣ノ無実ノ罪ニ 中心猶記 台山濤 中心疑方ハ忠ノ誤ノ志心テサハ

勤羊恨スミテ 勤羊恨スミテ 西山白雪入琴聲 西山ニ雪カフリ積テ居ルニハツレ目ヤカラト

為政風流不下堂 政事ヲアウカフニモ琴ナトヒカシ 中心猶記 台山濤 中心疑方ハ忠ノ誤ノ志心テサハ

子胥 忠臣ノ無実ノ罪ニ 中心猶記 台山濤 中心疑方ハ忠ノ誤ノ志心テサハ

勤羊恨スミテ 勤羊恨スミテ 西山白雪入琴聲 西山ニ雪カフリ積テ居ルニハツレ目ヤカラト

為政風流不下堂 政事ヲアウカフニモ琴ナトヒカシ 中心猶記 台山濤 中心疑方ハ忠ノ誤ノ志心テサハ

子胥 忠臣ノ無実ノ罪ニ 中心猶記 台山濤 中心疑方ハ忠ノ誤ノ志心テサハ

勤羊恨スミテ 勤羊恨スミテ 西山白雪入琴聲 西山ニ雪カフリ積テ居ルニハツレ目ヤカラト

為政風流不下堂 政事ヲアウカフニモ琴ナトヒカシ 中心猶記 台山濤 中心疑方ハ忠ノ誤ノ志心テサハ

子胥 忠臣ノ無実ノ罪ニ 中心猶記 台山濤 中心疑方ハ忠ノ誤ノ志心テサハ

ホトヲ 吳天惹恨 晉山秋 晉山、秋、今、更、 晉山秋盡 濤千里

外ノ大波ガタツ 外ノ大波ガタツ 于今白馬蹴吳天 白馬、大波ノ見立、今、以、萬、

里波濤報國心 里波、濤、報、國、心、 海夭漢濤 海、夭、漢、濤、

含恨 含、恨、 吳海捲波三万頃 吳、海、捲、波、三、万、頃、

恩深未賜 屬鏤劍 恩、深、未、賜、屬、鏤、劍、 屬鏤元是能成 離

瀟瀟 傍晉山 瀟、瀟、傍、晉、山、 欲識吳臣恨 驚濤動 晉山 欲、識、吳、臣、恨、驚、濤、動、晉、山、

忠心已報 屬鏤劍 忠、心、已、報、屬、鏤、劍、 屬鏤元不居 王意無起

晉山萬里濤 晉、山、萬、里、濤、 决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

白馬ノヤウチハラ 蹴ミテ、死テ 白、馬、ノ、ヤ、ウ、チ、ハ、ラ、蹴、ミ、テ、死、テ、

三ノ國ノ御恩ヲ 報ヒヤウト志 三、ノ、國、ノ、御、恩、ヲ、報、ヒ、ヤ、ウ、ト、志、

死罪ノ仰ヒタルモ 全ク中途ノハカヒテ上ノ恩ヨリ出タフテナレバ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

决ニテヒラ恨ミテ 晋山ノ大濤ヲ起ス 様ナフハセラレヌカヨイデ

ノフミテ中ニ深ク即國恩ヲ  
カヘスフコトキヤ  
請看襄子宮前水依舊東流豫讓橋

楊墨

世ノ中ノ善惡權ニ分ル  
フナゲクフニ用

能使楊朱迷歧路  
トカクニアル人ニハコノ  
世ノ中ノフニツクテ

人間変態似絲染  
世ノ中ノウツリカハルフハ子ノ糸ノ  
白クモ黒クモナル同極デア

青黄元不  
世ノ中ノウツリカハルフハ子ノ糸ノ  
白クモ黒クモナル同極デア

定何向泣絲人

元来青黄ナリ色ト云モノハ染染  
ノフデアん何モ別ニ重子ノ様ニナゲクニハナズ

人間萬事

似歧路

世ノ中ノ事何事モ歧路ノ南ニ北ニモカレルハ一ツ  
踏歩スレバ大相違ニナルト同極デア

歧路應難定  
歧路ハカラ

黄金銷鑠素絲變

黄金モキテシマクイ白クモイハ向ニカ色ニ成リ  
積毀銷金ト云フニテモ人ノ流ニ言ニ金

無為在歧路兒女共沾巾

世ノ中ノカハルフハ子ノ糸ノ  
白クモ黒クモナル同極デア

人世易泣歧

世ノ中ノカハルフハ子ノ糸ノ  
白クモ黒クモナル同極デア

百年只  
コレモ運別ノ句○

泣絲

一生海世ノ  
フナゲクバカリ

歧路任他從此別  
コレモ運別ノ句○

歧路何如世路多  
楊朱泣メト云岐路ハ路ハ多クイカ  
世ワタリノ色ト云フカシキ程デアアルイ

死生  
トツキ合フハ大事ノ物揚

如深絲人ノ死生白糸ノ黄ニ

結文字絲路  
墨ノ糸ハ深シクイ路モフ

寄言昔日泣絲者予と東西南北人  
昔ノ糸

断機

母親ノ子ヲシム  
事ニ用ユ

開書猶憶断機人  
世ヲシテシバ昔モノノ  
断机人ヲ思ヒサレル

機  
断机ノ心カハル

上半残截断心  
ハタラアルニモ子ヲハゲマサフト  
云心カハサレヌ

夙夜所生期断機  
断机ノ心カハル

我断機意  
学向ガメト云ハル意  
フ云ヒカシテ下サレタ

字ノ断機情  
母弟ノ書收ニシテト子  
ヲハゲシテヨカシト思フ心カハル

機中日短情尤断

世路ヲヤレル間ガ少クイデ  
別シテ心ヲイタム

三復見断機  
断机ノ心カハル

讀書感断機

世路ヲヤレル間ガ少クイデ  
別シテ心ヲイタム

乱断機色  
断机ノ心カハル

讀書感断機

世路ヲヤレル間ガ少クイデ  
別シテ心ヲイタム

乱断機色  
断机ノ心カハル

思フコシ 封書遠寄所様人 書状ヲ母所ノ 恙母織成機上錦 母所ノ 丹誠ニテ立派ナカガ 又寐織成機 語字ニテモろろに吟吟と云々 孟軻従来

有母賢 孟子ニ云来スグレタ母所ノ居ラレシ 又驪龍眠ハ陸居ノノトモ用其他種ニ変化用

③ 驪珠 人ノ才徳ヲトハ又探珠ハヨキ誇ル 領下珠懸龍窟深 ヨキ珠ガ驪龍

探得驪龍領下珠 探珠恐動驪龍眠 珠フサガシタラバヒヨラトシテ驪龍カ

珠暗驪龍窟 日ノ才徳ヲ見ハ驪龍眠不覺 引込テ世ニ 只有

夜珠懸 月ガアガツク 欲探領下物恐遇驪龍驚 珠ホシケレハ 龍ノ腹立モ

深入驪龍窟 欲探領下物恐遇驪龍驚 窟懸領下珠 龍ノ腹立モ

愁多明月抱驪珠 並ナラガアルニハ 浴池月出

物カアル 心配モ多ク

驪龍窟 龍窟ノアノ地ヨリ 驪龍夜不眠 吟夜驪龍 争得驪珠

照彩毫 ドウシテヨク詩ヲ作テ 驪龍未抱夜珠眠 イマタ陸居ノ所望

驪龍窟抱明珠出 驪龍窟ガ見エシ 探珠月湧驪龍窟

下有驪龍千仞窟出非君

何得探珠還 此下ノ深ニ驪龍窟ガアノソコモトテナレハ中ニ 我亦

試窺千仞窟可能容易探驪珠 此下ノ千仞ノ深ニ驪龍窟

莫向驪龍窟裏傳 何カ子何カ有ニ 珍藏領下珠莫

向人間借 領下ノ珠ハ大切ニシテ置テ世ノ中ノ人ニ与ラズ 驪龍領下珠莫

如是抱珠眠更穩 ヨク信ヲ抱テ世モカマバズ 以上五

相推乃濠上觀魚樂 友タチトツラテ魚ノ 與君濠

④ 魚樂

リヲ放ツタヤウチ 〇月ヨキニ云



上論魚樂 ソコモト、一同魚 春至必期濠上游 春至も成るに必濠

道途遊就知魚樂 道途遊を以て魚樂を知る也

觀魚可樂人間世 人間世を以て觀魚の可樂なる也

濠濮樂 濠濮ノ池ニテ魚ヲ觀テ樂ムヲ 共識游魚濠濮樂 此方ノ樂ハ在リテハ

樂擬漆園濠濮遊 漆園ノ樂ニ擬スル也 俯觀濠水游魚樂 水中ニ魚ヲ

濠上觀游魚 心ノ下カニ水ニテ魚ヲ 魚樂可觀濠濮心 魚ノ樂ヲ觀テ心ヲ

還笑莊周論鱸魚 莊周ノ論ニテ鱸魚ヲ 極樂 極樂ニテ居ル

不識虞卿著書篇 虞卿トシテハドノクニ書物ヲ著

史記 史記ニ因テ果不得意乃著書ト云

① 虞卿 大抵指ス人アリ 不識虞卿著書篇 虞卿トシテハドノクニ書物ヲ著

若書若作ノヲ用ヒタル虞卿趙ノ上卿ニテ萬戸侯タリシガ此頃秦相應侯范雎ト著親

相親有也然アリテ類ニ親有テモトシテ度由テ親ハ申送ルニ依テ親有セシキリ虞卿ハ故人トシ

虞卿ノ方ニ來リテ賴モタリ虞卿友人ノ誰儀ヲ救ヒテ趙相ヲ待退シテ兩人シノビテ親ハ後居

一行テ賴シタル虞卿トシテ決セザルニ依リ親有テ遂ニ自殺シ又コレヨリ虞卿流傳シテ

セシ方ナリ著述ニテ虞氏春秋ト云故ニ大史公リ楚孟孟度卿州宮著述亦

不似著書以自見於後世ト著キタリ其事ヲ用テ著書者亦多ク用

簽名 虞卿ノ標ニオアリテ処アル人ニ一度 趙國上卿懶著書 趙ノ上卿

書就虞卿老不妨 虞卿ハ年ヲシテモ著述カテキ 功名共美次虞

卿 一度趙王ニ拜謁シテ黃金白璧ヲ賜物アリ 苦學虞卿教著書 苦學

虞卿損印見交情 損疑指誤ニテ虞卿ハ友

不是虞卿老著書 虞卿ハ老後著述 兼看白璧

趙虞卿 又白璧玉ノ標ナルハ趙ノ臣トシテ著 虞卿懶著書 虞卿ハ著

書成勇抱虜御壁 若送ガデキテ法構ナ  
復載物ノ有クモ有ク

⑤ 照乘 人才或人ノ詩  
文等ニタツ 一握明珠照乘来 一握モアハ法構ナ珠ニハ多  
ノ車ヲモ照スル夕

君家照乘珠猶在 ソコモトノ内ノ賢息ハ  
所息災テス 魏國有珠照乘来 魏國ニハ元東  
元東明珠カアルガ車ヲ  
イノウ照ステアラフ

明珠好送君 法構ナ玉ヲ以テ  
所送別申ス 魏國珍蔵照乘璧 魏國ニハ元東  
照乘ノ璧ヲ有ス

更有珠光照乘車 ソノ上照乘ノ璧  
カアル法構ナ 照乘夜来臨大

國 照乘ノ法構ナ璧  
格別ノ才徳アル所人 百里堪償照乘珠 照乘ノ璧  
上相忘ス

後車已照魏王珠 供車ノ内ニ魏王ノ照乘  
ノ璧ノ様ナクガア 明珠照

幾乘 コノ玉ハ幾乘  
ヲ照ステアラフ 十二乘車珠照迹 十二ノ車ノ迹モ珠  
ノ光デキモス 君有明珠

堪照乘更將清影到茅茨 ソコモトハ珠ノ車ヲ照ス如キ才徳カ  
ル所方ナルニ茅茨ノワラヤヲ御感

也知照乘珠猶在不是先容不敢張 ソコ  
モト 隨珠終得照梁車 隨珠  
ノ珠

平原 平原君ノ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 平原愛才多衆賓 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

宿 平原君ハ人オラ愛セラレシム  
宿ガコトノ外多ク有ク 宿方ニツキ度トシモフ

日布衣飲

浪人の種中無色作れ合

于今尚醉平君館

平君ノ館ニテ

酒平原門前如雲

平原君ノ門前ニハ

趙勝由來能下人

平原

東漢遊シテシラハ

平原千載交不識後誰求

平原君ノ様ニ人ヲ愛シテ

假令十日須酣飲

タトヒ十日テモ十分

欲罍珠履向平原滿

堂華宴十日飲

平原君ノ宴珠履ヲハキル同様に此方モ立止ニ交度シテ

燕霜

無字ノ原ニ死ん人ニ用ヒ

六月飛霜燕地色

六月ノ炎天ニ霜ガ

仰天六月有飛霜

天ヲ仰テムシワテ許フルハ

飛霜六月忠心動

夏天六月降霜時

六月ノ炎天ニ霜ガ

願使燕霜滿夏天

昔時燕霜能哭霜

昔燕ノ

鄒行ハムシワテ

忠心ノアリカタマテテ感動

誰似鄒公六月霜

鄒行ノ六月ニ霜ヲラセタキ

哭作燕山五月霜

所手而ムシワテイタクナゲキヲ

為降燕地夏天霜

五月ノ炎天ニ霜ガ

燕國故降六月霜

燕地ニモト六月ニ霜

燕中如雪

鄒行ノ至忠ヲモアハレミ

飛霜猶自滿燕山

今ニ燕地ニハ

銜冤欲盡鄒生恨五月飛霜滿太虛

ムシツノ罪ニ達スレハ鄒行同様ニ

詎有燕地吹墜霜

此大天ノ暑氣ニテハタトヒ燕國ニモ霜

此上五言 午五月二十上

五月廿二日 杜律 不 上

